IPSiO Color 8150 スキャナーユニット タイプ8100

使用説明書 〈スキャナー機能編〉

ご使用の前に必ずこの「使用説明書」をお読みの上、正しくお使いください。
本書をすぐに利用できるように保管してください。

■ はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この使用説明書は、製品の正しい使い方や使用上の注意について記載してあります。ご使用の前に、この使用説明書を最後までよくお読みの上、正しくお使いください。また、この使用説明書が必要になったとき、すぐに利用できるように保管してください。

安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず「安全上のご注意」をお読みください。

株式会社リコー

複製、印刷が禁止されているもの

- 本機を使って、何を複製、印刷してもよいとは限りません。法律により罰せられることもありますので、ご注意ください。
- 1. 複製、印刷することが禁止されているもの
- （見本と書かれているものでも複製、印刷できない場合があります。）

* 紙幣、貨幣、銀行券、国債証券、地方債券など
* 日本や外国の郵便切手、印紙

☛（関係法律）

- 紙幣類似証券取締法
- 通貨及証券模造取締法
- 郵便切手類模造等取締法
- 印紙等模造取締法
- （刑法 第１４８条 第１６２条）

- 2. 不正に複製、印刷することが禁止されているもの

* 外国の紙幣、貨幣、銀行券
* 株券、手形、小切手などの有価証券
* 国や地方公共団体などの発行するパスポート、免許証、許可証、身分証明書などの文書または図画
* 個人、民間会社などの発行する定期券、回数券、通行券、食券など、権利や事実を証明する文書または図画

☛（関係法律）

- 刑法 第１４９条 第１５５条 第１５９条 第１６２条
- 外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律

- 3. 著作権法で保護されているもの

* 著作権法により保護されている著作物（書籍、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画および写真など）を複製、印刷することは、個人または家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で使用する目的で複製、印刷する場合を除き、禁止されています。

商標

Adobe、AcrobatはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
Ethernetは富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
PentiumはIntel Corporationの登録商標です。
MS、Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
その他の製品名、名称は各社の商標または登録商標です。

* Windows®95の製品名は、Microsoft® Windows® 95です。
* Windows®98の製品名は、Microsoft® Windows® 98です。
* Windows® Meの製品名は、Microsoft® Windows® Millennium Edition（Windows Me）です。
* Windows® 2000の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows® 2000 Server
  Microsoft® Windows® 2000 Professional
* Windows NT® 4.0の製品名は以下のとおりです。
  Microsoft® Windows NT® Server 4.0
  Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0

重要

❒ 本機に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作をミスしたり本機に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。登録した内容は、必ず控えをとるようにしてください。
❒ 本機の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本機の使用により生じた損害について、当社はいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

機械の改良変更等により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

おことわり

1. 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
2. 本製品（ハードウエア、ソフトウエア）および使用説明書（本書・付属説明書）を運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
3. 本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。

使用説明書について

本機のスキャナー機能を使用するために必要な説明書は以下のとおりです。

補足

❒ PDF形式の説明書を表示するには、Adobe Acrobat Readerが必要です。Acrobat Readerは、Ridoc Desk 2000 LtまたはRidoc Document Router Ltのセットアップ画面からインストールできます。

❖ 使用説明書〈システム設定編1〉、〈システム設定編2（PDF）〉

本機に付属している説明書です。本機をネットワークに接続して使用するための、基本的な項目の設定のしかたが記載されています。スキャナー機能を使用するにはネットワークへの接続が必要です。はじめに参照して必要な項目を設定してください。

❖ 使用説明書〈コピー機能 応用編（PDF）〉

本機に付属している説明書です。本機で使用できる原稿の種類などが記載されています。

❖ 使用説明書〈ファクス機能 基本編〉、〈ファクス機能 応用編（PDF）〉

本機に付属している説明書です。文字入力のしかたなどが記載されています。

❖ 使用説明書〈スキャナー機能編〉（本書）

スキャナー機能を使用するための基本的な設定、必要なソフトウェアのインストール、実際にスキャナー機能を使用するときの操作のしかたが記載されています。

❖ Ridoc Desk 2000 Lt関連の説明書

Ridoc Desk 2000 Ltは本製品のCD-ROM「スキャナードライバー &ユーティリティ」に収録されているソフトウェアです。Ridoc Desk 2000 Ltの機能については、P.32 「Ridoc Desk 2000 Lt」を参照してください。

- Ridoc Desk 2000 Lt セットアップガイド（PDF）
  Ridoc Desk 2000 Ltの動作環境の詳細とインストールのしかたが記載されています。Ridoc Desk 2000 Ltのインストール時にセットアップ画面から表示します。
- Ridoc Desk 2000 Lt はじめてガイド（PDF）
  Ridoc Desk 2000 Ltの機能概要と使いかたが記載されています。Ridoc Desk 2000 Ltをインストールするとスタートメニューに登録されます。
- Ridoc Document Router リンク ガイド（PDF）
  Ridoc Desk 2000 Ltとともにインストールされる「Ridoc Document Router リンク」の機能と操作のしかたが記載されています。Ridoc Desk 2000 Ltをインストールするとスタートメニューに登録されます。

❖ Ridoc Document Router Lt関連の説明書

補足

❒ Ridoc Document Router Ltは本製品のCD-ROM「スキャナードライバー &ユーティリティ」に収録されているソフトウェアです。Ridoc Document Router Ltの機能については、P.6「ネットワーク配信スキャナー」、P.33 「Ridoc Document Router Lt」を参照してください。

- Ridoc Document Router Lt セットアップガイド（PDF）
  Ridoc Document Router Ltの動作環境の詳細、インストールと初期設定のしかたが記載されています。Ridoc Document Router Ltのインストール時にセットアップ画面から表示します。
- Ridoc Document Router Lt 管理者ガイド（PDF）
  Ridoc Document Router Ltの機能概要と配信サーバーの管理・運用のしかたが記載されています。Ridoc Document Router Ltをインストールするとスタートメニューに登録されます。

ダイヤルアップ関連機器をお使いの場合の注意

本機をネットワークに接続してご使用になるときは、セットアップ時や設定の変更時などに、次のことに注意してください。

具体的な設定項目などについては、Ridoc Document Router / Lt、Ridoc Desk 2000 / Ltの説明書やヘルプをご覧ください。

❖ ネットワーク環境にダイヤルアップルーターが接続されている場合

本機、Ridoc Document Router リンク、Ridoc Desk 2000 / Ltにおいては、接続する配信サーバーを適切に設定してください。さらに、Ridoc Document Router / Ltの配信管理ツールで行うI/O機器設定においては、接続機器を適切に設定してください。

ネットワーク環境を変更したときは、本機やクライアントコンピュータの配信管理ツール、Ridoc Document Routerリンク、Ridoc Desk 2000 / Ltで、接続する配信サーバーを正しく設定しなおしてください。また、配信管理ツールのI/O機器設定で、接続機器を正しく設定しなおしてください。

重要

❒ ダイヤルアップルーターを経由して配信サーバーと接続するように設定されている場合、配信サーバーへの接続時に回線の接続が発生し、通信料がかかることがあります。

❖ ダイヤルアップ接続しているパソコンをお使いの場合

- Ridoc Document Router / Ltは、ダイヤルアップ接続しているパソコンにインストールしないでください。
- ダイヤルアップ接続しているパソコンで、Ridoc Document Router / Lt、Ridoc Desk 2000 / Lt、Ridoc Document Routerリンク、TWAINドライバーを使用する場合、設定によっては配信サーバーや機器との接続のためにダイヤルアップ接続が行われることがあります。パソコンからインターネットに自動的に接続するように設定していると、接続確認のダイアログボックスが表示されずに回線がインターネットに接続され、通信料が発生することがあります。不要なダイヤルアップ接続を行わないために、必ず接続確認を表示する設定で運用してください。また、これらのソフトウェアを使用中に不要なダイヤルアップ接続が行われていないかを確認してください。

❖ WAN環境でお使いの場合

WAN環境ではクライアントコンピュータにインストールされたRidoc Document Routerリンク、配信管理ツールを使用しないでください。ネットワークによっては接続時にタイムアウトが発生し、正常に配信できないことがあります。

この本の読み方

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

重要

誤って操作をすると、紙づまり、原稿破損、データ消失などの原因になることがあります。必ず、お読みください。

操作の前に

操作をする前に知っておいていただきたいこと、あらかじめ準備していただきたいことなどを説明しています。

補足

操作するときに気を付けることや、操作を誤ったときの対処方法などを説明しています。

制限

数値の制限や組み合わせできない機能、機能が使用できない状態を説明しています。

参照

参照先を示します。

［ ］

画面のキーの名称を示します。

【 】

操作部（画面を除く）のキーの名称を示します。

おもなオプションの略称

次のオプションは略称で説明しています。

- スキャナーユニットタイプ8100→スキャナーユニット
- 拡張HDD タイプCⅡ→拡張HDD(40GB)
- 拡張HDD タイプC→拡張HDD(20GB)

その他のオプションについては各使用説明書を参照してください。

次の製品（ソフトウェア）については、総称を使用しています。

- Ridoc Desk 2000とRidoc Desk 2000 Lt→Ridoc Desk 2000 / Lt
- Ridoc Document RouterとRidoc Document Router Lt→Ridoc Document Router / Lt

目次

1. ネットワークスキャナーについて

2. スキャナーとして使用するための準備

3. 原稿のセットのしかた

4. ネットワークTWAINスキャナーで原稿を読み取る

5. ネットワーク配信スキャナーで文書を配信する

6. ドキュメントボックスを使う

7. 付録

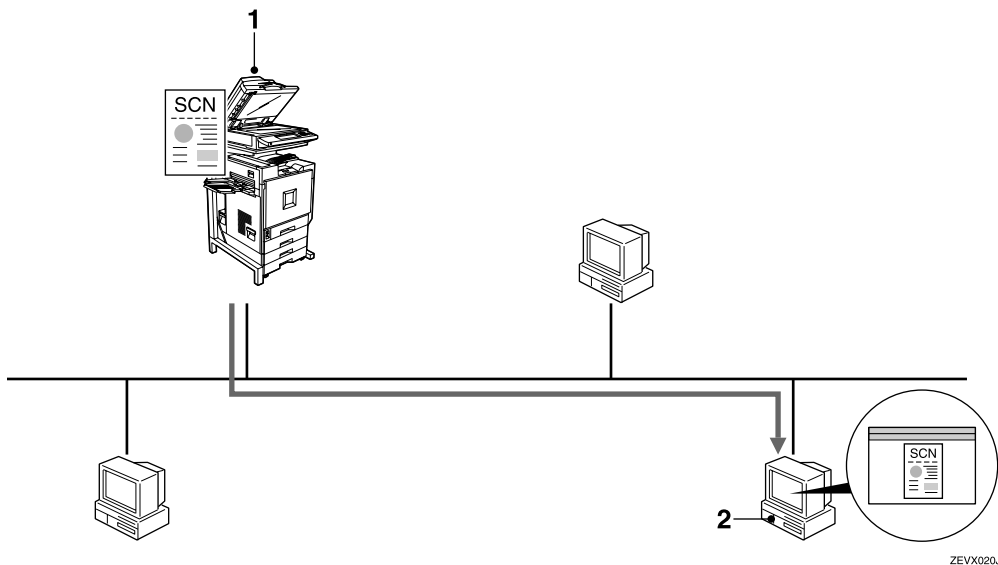
1. ネットワークスキャナーについて

概要

本機にスキャナーユニットを装着することにより、本機をネットワークスキャナーとして使用できます。

ネットワークスキャナーには「ネットワークTWAINスキャナー」、「ネットワーク配信スキャナー」、「ドキュメントボックス」の3つの機能があります。

ネットワークTWAINスキャナー

パソコンからネットワーク経由で本機のスキャナーを使用します。SCSIやUSB接続のスキャナーと同様の操作で原稿を読み取ることができます。詳しくは、P.41「ネットワークTWAINスキャナーで原稿を読み取る」を参照してください。

1. **本機**

パソコンからネットワーク経由で本機のスキャナーを使用します。

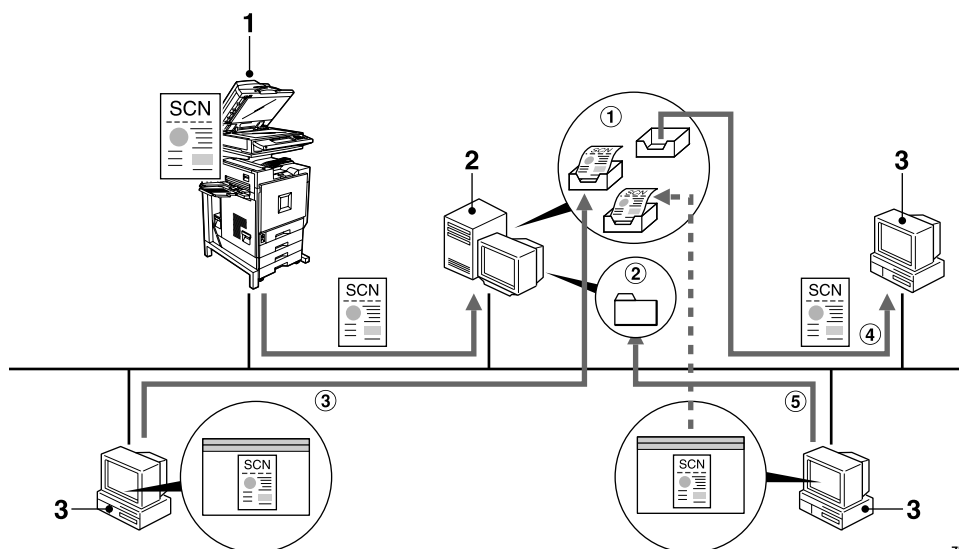
2. **パソコン**

アプリケーションから本機用のTWAINドライバーを使って原稿を読み取ります。

ネットワーク配信スキャナー

本機をRidoc Document Router / Ltの配信スキャナーとして使用します。本機で読み取った文書を配信サーバー内に保存したり、同一ネットワーク上にあるパソコンのフォルダに配信することができます。詳しくは、P.47 「ネットワーク配信スキャナーで文書を配信する」を参照してください。

補足

❒ 別売の「Ridoc Document Router」を使用すると、フォルダへの配信に加え、メールを使った配信、文書管理サーバーへの登録、クライアントコンピュータからのWebブラウザを使った文書の閲覧が可能になります。

***1.* 本機**

スキャナーで読み取った文書を配信サーバーに送ります。

ドキュメントボックスと組み合わせて使用すると、複数の文書をいったん蓄積したあと、まとめて配信することができます⇒ P.53「ドキュメントボックスと組み合わせて使う」。

***2.* 配信サーバー**

Ridoc Document Router / Ltをインストールし、配信サーバーとして使用します。

送られてきた文書を指定されたあて先の受信トレイ（図の①）に配信します。配信された文書は受信トレイの設定により、そのまま受信トレイに保存したり、Windowsのフォルダ（図の②）に保存することができます。

***3.* クライアントコンピュータ**

保存された文書の内容を次の方法で確認します。

- Ridoc Desk 2000 Ltで受信トレイの文書を閲覧し、内容を確認します。（図の③）
- Ridoc Document Router リンクを使って受信トレイの文書を受信し、ファイル形式に応じたアプリケーションで内容を確認します。（図の④）
- Windows の保存先のフォルダにネットワーク経由で接続し、ファイル形式に応じたアプリケーションで内容を確認します。（図の⑤）

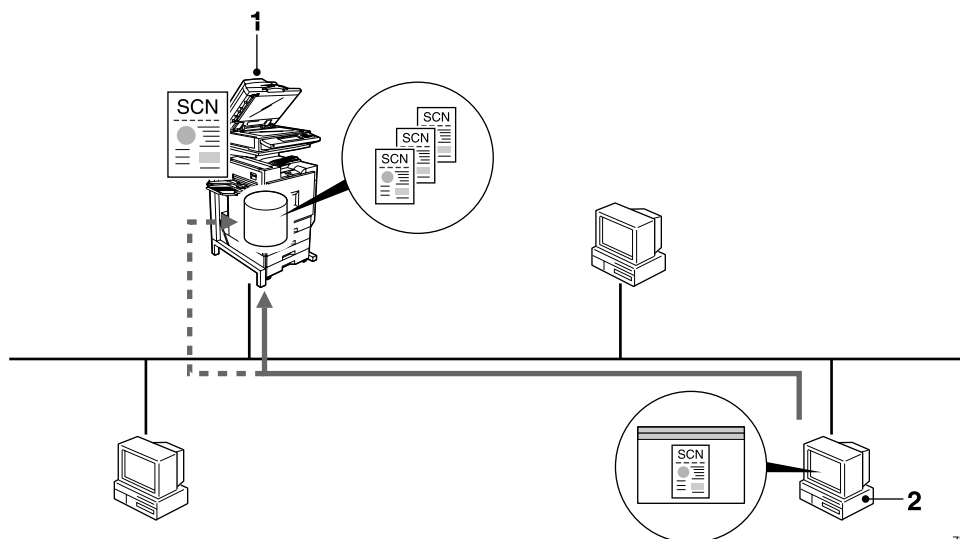
参照

Ridoc Document Router Lt、Ridoc Desk 2000 Lt、Ridoc Document Router リンクについて詳しくは、それぞれの説明書を参照してください⇒ P.1 「使用説明書について」。

ドキュメントボックス

スキャナー機能で読み取った原稿を文書として本機のハードディスクに蓄積しておき、パソコンからRidoc Desk 2000 / Ltを使ってネットワーク経由で閲覧したり消去することができます。文書にユーザー名や文書名を設定しておくと、それらをキーに文書を検索できます。また、文書にパスワードを設定して、他の人に閲覧されないようにすることもできます。詳しくは、P.55「ドキュメントボックスを使う」を参照してください。

制限

❒ ドキュメントボックスを使用するには、オプションの拡張HDD(40GB)が必要です。

1. **本機**

スキャナーで読み取った文書を蓄積します。

2. **パソコン**

Ridoc Desk 2000 / Ltを使って本機に接続し、蓄積してある文書を閲覧したり消去することができます。

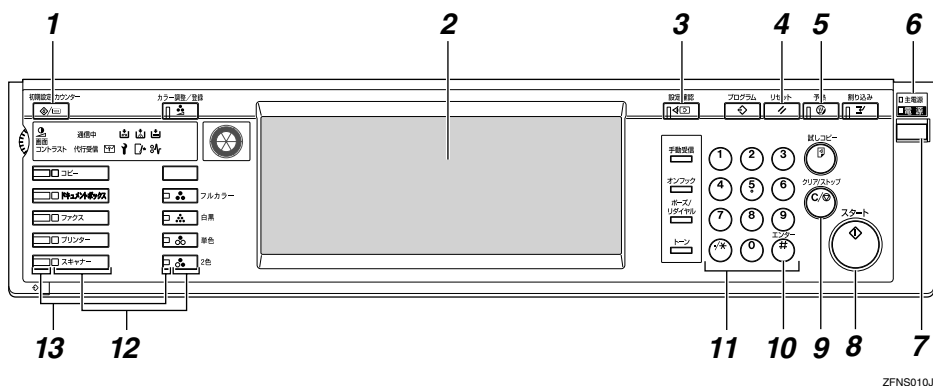
参照

Ridoc Desk 2000 Ltについて詳しくは、Ridoc Desk 2000 Lt関連の説明書を参照してください⇒ P.1「使用説明書について」。

各部の名称とはたらき

ここでは、スキャナー機能に関わる各部の名称とはたらきについて説明します。

操作パネル

イラストはオプション装着時のものです。

1. **【初期設定/カウンター】キー**

使用条件に合わせて、初期設定値や操作条件を変更します。

2. **画面**

各機能の操作をするためのキーが表示されます、また操作の状態やメッセージを表示します。

3. **【設定確認】キー**

設定の確認をするときに押します。

4. **【リセット】キー**

設定した内容を取り消します。

5. **【予熱】キー**

キーを押すと予熱の状態になります。

予熱の状態のときに押すと予熱が解除されます。

補足

❒ 原稿の読み取り中、スキャナー初期設定中は無効です。

6. **主電源ランプ**

主電源スイッチが「On」になっているときはランプが点灯します。

7. **【電源】キー**

電源を入れるときはキーを押し、電源のランプを点灯させます。電源を切るときはキーを押し、電源のランプを消灯させます。

補足

❒ スキャナー初期設定中は無効です。

8. **【スタート】キー**

原稿の読み取り、文書の蓄積および配信を開始します。

9. **【クリア／ストップ】キー**

- クリア
  入力した数値を取り消します。
- ストップ
  原稿の読み取りを中止します。

10. **【#】キー（エンターキー）**

入力した数値を確定します。

11. **テンキー**

数値を入力します。

12. **機能キー**

「コピー」「ドキュメントボックス」「ファクス」「プリンター」「スキャナー」「フルカラー」「白黒」「単色」「2色」の各機能の操作画面に切り替えます。

13. 機能別状態表示ランプ

機能キーで選択された機能のランプが点灯します。

- 黄色に点灯しているときは、その機能が選択されていることを示します。
- 緑色に点灯しているときは、その機能が動作中であることを示します。
- 赤色に点灯しているときは、その機能が中断していることを示します。機能キーで画面を切り替え、表示されている指示に従って対処してください。

画面の構成

操作パネルで通常表示される画面の構成は次のとおりです。

使用するモードにより画面の構成が異なります。

重要

❒ 画面に強い衝撃や力を加えないでください。破損の原因になります。約30N [*1]（約3kgf [*2]）が限界です。

[*1] ：N=**ニュートン**

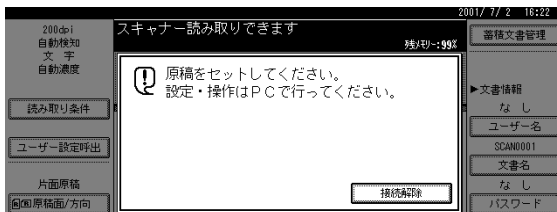
[*2] ：kgf＝**重量キログラム**(1kgf 9.8N)

補足

❒ 電源を入れたときに表示される画面は、工場出荷時には「コピー」が設定されています。この設定は、システム初期設定の［基本設定］タブの「優先機能」で変更できます⇒「システム設定編2」。

❒ 選択・指定されている項目は、ユーザー設定呼出のように反転表示されます。

ネットワークTWAINスキャナーとして使用する場合

ネットワークTWAINスキャナーとして使用するときは、操作パネルの**【スキャナー】**キーを押す必要はありません。TWAINドライバーを使いクライアントのパソコンで原稿を読み取ると、自動的に画面が切り替わります。

他の機能を使うときは［接続解除］を押して操作します。

1

ネットワーク配信スキャナーとして使用する場合

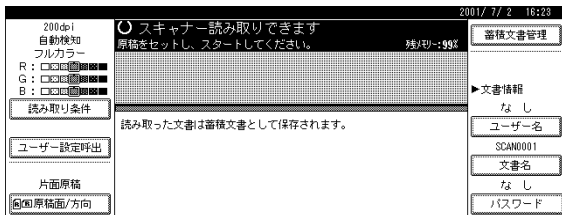
【スキャナー】キーを押すとネットワーク配信スキャナーの画面が表示されます。このときネットワークTWAINスキャナーの画面が表示されたときは、［接続解除］を押してください。

ドキュメントボックスを使用する場合

【スキャナー】キーを押すとドキュメントボックスの画面が表示されます。このときネットワークTWAINスキャナーの画面が表示されたときは、［接続解除］を押してください。

ドキュメントボックスの画面は、ネットワーク配信スキャナーの使用の有無で異なります。

❖ ネットワーク配信スキャナーを使用しているとき

❖ ネットワーク配信スキャナーを使用していないとき

共通キーの操作

すべての画面で共通のキー操作は次のとおりです。

❖ キー一覧

キー	説明
[設定]、[OK]	選択した機能や入力した数値を確定し、1つ前の選択画面画面に戻します。
[取消]、[解除]	選択した機能や入力した数値を取り消し、1つ前の選択画面画面に戻します。
[▲前へ]、[▼次へ]	1つのページにすべての機能が表示しきれないとき、前のページや次ページに切り替えます。
[閉じる]	メッセージ画面を閉じます。
[クリア]	入力した数値をクリアし、入力前の状態に戻します。画面は切り替わりません。
[終了]	選択した機能や入力した数値を確定して、1つ前の画面に戻します。

2. スキャナーとして使用するための準備

本機をネットワークスキャナーとして使用するには、スキャナーとして使用するために必要な設定に加え、ネットワーク環境で使用するための基本的な項目を設定する必要があります。

はじめに本機に付属の「システム設定編1」を参照して基本的な項目を設定し、そのあとスキャナーの設定をしてください。

準備の流れ

ネットワーク TWAIN スキャナーとして使用する場合、ネットワーク配信スキャナーとして使用する場合、ドキュメントボックスを使用する場合で準備の手順が異なります。使用する機能に応じて準備を行ってください。

ネットワークTWAINスキャナーとして使用する場合

ネットワーク環境に接続する

本機とネットワーク環境をイーサネットケーブルで接続します。

⇒「システム設定編1　スキャナーユニット　タイプ8100対応版」

▼

初期設定を設定する

システム初期設定でネットワークの設定を確認、変更します。

⇒「システム設定編1　スキャナーユニット　タイプ8100対応版」

▼

スキャナーの初期設定をする

圧縮設定などTWAINスキャナーに関する設定をします。

⇒ P.16 「スキャナーの初期設定をする」

▼

4 **ソフトウェアをインストールする**

TWAINドライバー、Ridoc Desk 2000 Ltなど、ネットワークTWAINスキャナー機能で必要なソフトウェアをパソコンにインストールします。

⇒ P.28 「ネットワークTWAINスキャナーを使うためのソフトウェア」

ネットワーク配信スキャナーとして使用する場合

ネットワーク環境に接続する

本機とネットワーク環境をイーサネットケーブルで接続します。
⇒「システム設定編1　スキャナーユニット　タイプ8100対応版」

▼

初期設定を設定する

システム初期設定でネットワークの設定を確認、変更します。
⇒「システム設定編1　スキャナーユニット　タイプ8100対応版」

▼

スキャナーの初期設定をする

読み取り条件や件名の登録など、ネットワーク配信スキャナーに関する設定をします。
⇒ P.16 「スキャナーの初期設定をする」

▼

4 配信用ソフトウェアをインストールする

Ridoc Document Router Ltなど、ネットワーク配信スキャナー機能で必要なソフトウェアを配信サーバーにインストールします。さらに、インストールしたソフトウェアでサーバーのメンテナンスや配信サービスの開始などの設定を行い、配信サーバーをセットアップします。
⇒ P.29 「ネットワーク配信スキャナーを使うためのソフトウェア」

参照

Ridoc Document Router Ltについては、Ridoc Document Router Lt関連の説明書も参照してください⇒ P.1 「使用説明書について」。

▼

配信先、送信者を登録する

Ridoc Document Router / Ltの配信管理ツールで、配信先と送信者を登録します。

▼

クライアントコンピュータ用のソフトウェアをインストールする

Ridoc Desk 2000 Ltなど、配信サーバーに接続して文書を閲覧したり、引き取ったりするために必要なソフトウェアをクライアントコンピュータにインストールします。
⇒ P.30 「Ridoc Desk 2000 Lt」

ドキュメントボックスを使う場合

ネットワーク配信スキャナーと組み合わせて使う場合は、以下の準備の後にP.14「ネットワーク配信スキャナーとして使用する場合」の③〜⑤の作業も行ってください。

① ネットワーク環境に接続する

本機とネットワーク環境をイーサネットケーブルで接続します。

⇒「システム設定編1　スキャナーユニット　タイプ8100対応版」

② 初期設定を設定する

システム初期設定でネットワークの設定を確認、変更します。

⇒「システム設定編1　スキャナーユニット　タイプ8100対応版」

③ スキャナーの初期設定をする

読み取り条件や原稿の優先設定など、ドキュメントボックスに関する設定をします。

⇒ P.16 「スキャナーの初期設定をする」

④ ソフトウェアをインストールする

Ridoc Desk 2000 Ltなど、ドキュメントボックスに蓄積された文書を閲覧するために必要なソフトウェアを、パソコンにインストールします。

⇒ P.30 「Ridoc Desk 2000 Lt」

スキャナーの初期設定をする

ここでは、本機をネットワークスキャナーとして使用するために必要な設定項目と、設定の手順について説明します。

初期設定項目一覧

ネットワークスキャナーの各機能を使用するための設定項目は以下のとおりです。必要な項目を正しく設定してください。

重要

- ◎の設定項目は、本機をネットワークスキャナーとして使用するために最低限必要です。本機を使用する前に必ず設定してください。
- ○の設定項目は、必要に応じて設定してください。

❖ システム初期設定

各項目の説明と設定のしかたについては、それぞれの説明書を参照してください。

設定項目		TWAIN [*1]	配信 [*2]	蓄積 [*3]
時刻タイマー設定 ⇒「システム設定編2」	スキャナーオートリセット時間設定		○	○
インターフェース設定 ［ネットワーク］ ⇒「システム設定編1」	本体IPアドレス	◎	◎	◎
	サブネットマスク	○	○	○
	ゲートウェイアドレス	○	○	○
	アクセスコントロール	○		
	アクセスマスク	○		
	ネットワークブート	○		
	有効プロトコル [*4]	○	○	○
	イーサネット速度	○	○	
ファイル転送設定 ⇒「システム設定編1」	配信サーバー IPアドレス [*5]		◎	
	再配信間隔時間設定		○	
	再配信回数設定		○	

[*1] **ネットワークTWAINスキャナーを使用するときに関係する設定項目です。**

[*2] **ネットワーク配信スキャナーを使用するときに関係する設定項目です。**

[*3] **ドキュメントボックスを使用するときに関係する設定項目です。**

[*4] **この項目は、変更しないでください。工場出荷時の設定のままで使用してください。**

[*5] **IPアドレスが設定されていることを確認してください。**

❖ スキャナー初期設定

スキャナー初期設定の各項目の説明と設定のしかたは、本書に記載されています。それぞれの参照先をお読みください。

設定項目		工場出荷時の設定	TWAIN [*1]	配信 [*2]	蓄積 [*3]
読み取り条件 ⇒ P.18	解像度	200dpi		○	○
	読み取りサイズ	自動検知		○	○
	原稿種類	フルカラー		○	○
	濃度	中央の値		○	○
スキャナー設定 ⇒ P.21	配信・蓄積/TWAIN優先設定	配信・蓄積	○	○	○
	配信・蓄積/TWAIN切り替え時間	10秒	○	○	○
	圧縮設定（白黒2値）	圧縮する	○	○	○
	圧縮設定（グレースケール/フルカラー）	標準画質	○	○	○
	配信オプション	なし		◎	
	優先原稿面/ひらき方向	片面		○	○
	優先原稿セット方向			○	○
	原稿サイズ混載優先	しない		○	○
	SADFオートリセット時間設定	しない		○	○
件名設定 ⇒ P.23		未登録		○	

[*1] **ネットワークTWAINスキャナーを使用するときに関係する設定項目です。**

[*2] **ネットワーク配信スキャナーを使用するときに関係する設定項目です。**

[*3] **ドキュメントボックスを使用するときに関係する設定項目です。**

読み取り条件を登録する

原稿の読み取り時に選択する読み取り条件（解像度、読み取りサイズ、原稿種類、濃度）を登録できます。同じ種類の原稿をよく使うときは、あらかじめ最適な読み取り条件を登録しておくと配信・蓄積時に簡単に選択することができます。

補足

- ❒ 好みの設定を「初期値設定」、「ユーザー設定1」〜「ユーザー設定5」に合計6種類登録できます。「初期値設定」に登録した内容は読み取り条件の初期値になります。配信時に読み取り条件を選択しなかった場合、原稿は「初期値設定」に登録した条件で読み取られます。
- ❒ 「ユーザー設定1」〜「ユーザー設定5」は、半角16文字までの好みの名称に変更できます。

読み取り条件の各項目の内容は以下のとおりです。

❖ 解像度

読み取る解像度を 100dpi、200dpi、300dpi、400dpi、600dpiから選択します。

❖ 読み取りサイズ

原稿を読み取る範囲を選択します。

- 「自動検知」を選択すると、本機の自動サイズ検知機能を使って原稿サイズを読み取ります。
- 固定のサイズを指定すると、実際の原稿サイズに関わらず、指定したサイズで読み取ります。選択できるサイズは次のとおりです。
  A3▭、A4▭、A4▯、A5▭、A5▯、11x17▭、8 1/2x14▭、8 1/2x13▭、8 1/2x11▭、8 1/2x11▯、5 1/2x8 1/2▭、5 1/2x8 1/2▯、B4▭、B5▭、B5▯、不定形

  補足

  - ❒ 「不定形」を選択すると縦横の読み取り範囲をmm単位で指定できます。

❖ 原稿種類

選択した原稿の種類に適した設定で読み取られます。

- 文字
  文字を主体とした標準的な原稿。
- 文字・写真
  写真や絵画と文字が混じった原稿。
- 写真
  写真や絵画の原稿（2値）。
- グレースケール
  写真や絵画の原稿（多値）。
- フルカラー
  写真や絵画と文字が混じったカラー原稿。

補足

- ❒ 白黒で読み取る場合「写真」が2値で画像を読み取るのに対し、「グレースケール」は多値で画像を読み取ります。選択の目安として印刷する場合は「写真」が、パソコンのディスプレイで表示する場合は「グレースケール」が適しています。

❖ 濃度

原稿を読み取る濃度です。白黒 / グレースケール原稿時は、うすく(1)〜こく(7)の7段階から選択します。フルカラー原稿時は、R/G/B それぞれの濃度をうすく (1) 〜こく (7) の7段階から選択します。

登録の操作手順

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

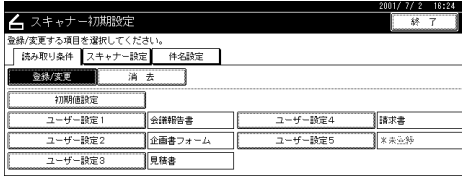
ZEVS050J

初期設定/カウンター画面が表示されます。

2 [スキャナー初期設定] を押します。

スキャナー初期設定画面が表示されます。

3 [読み取り条件] タブが表示されていることを確認します。

4 **[登録/変更] が選択されていることを確認し、登録する読み取り条件を選択します。**

読み取り条件の名称を入力する画面が表示されます。

5 **読み取り条件の名称を入力し、[OK] を押します。**

参照

文字の入力方法については、「ファクス機能 基本編」を参照してください。

6 **設定する項目を選択し、登録する値を選択します。**

項目を選択するには、直接その項目を押します。押した項目が反転表示されます。

これは解像度の例です。

これは濃度の例です。

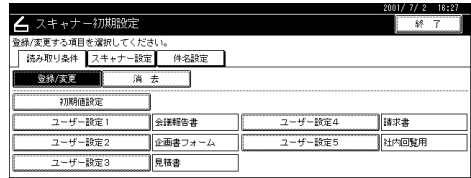
補足

❒ [読み取りサイズ] で [不定形] を選択したときの操作はP.19「読み取りサイズで不定形を選択する場合」を参照してください。

7 **すべての設定が終わったら [OK] を押します。**

読み取り条件が登録されます。

8 **ほかの読み取り条件を登録するときは、手順4から操作を繰り返します。**

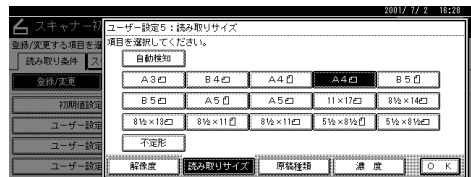
9 **すべての登録が終わったら [終了] を押します。**

初期設定/カウンター画面に戻ります。

10 **[終了] を押します。**

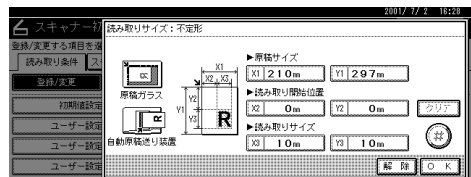
通常画面に戻ります。

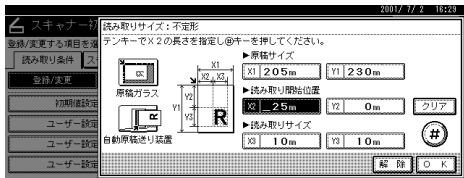
読み取りサイズで不定形を選択する場合

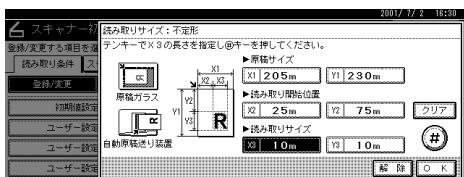
読み取りサイズとして「不定形」を選択する場合は、以下の手順で読み取りサイズを入力します。

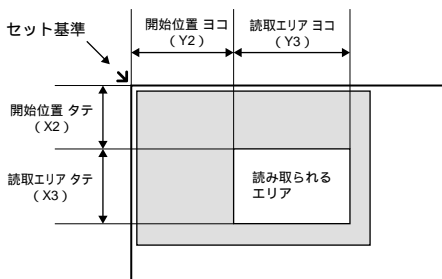
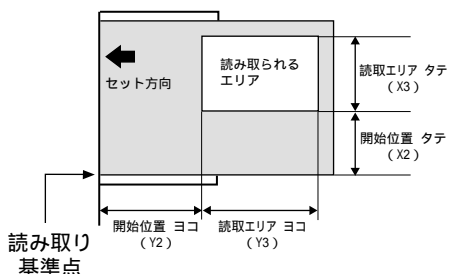
1 **読み取りサイズの選択画面で [不定形] を押します。**

2 **原稿サイズをテンキーで入力します。**

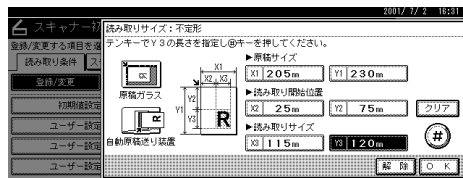
[X1] または [Y1] を押して選択し、長さを入力して [#] を押します。

2

3 読み取り基準点からの読み取り開始位置をテンキーで入力します。

［X2］または［Y2］を押して選択し、長さを入力して［#］を押します。

4 読み取りサイズ（エリア）の範囲をテンキーで入力します。

［X3］または［Y3］を押して選択し、長さを入力して［#］を押します。

読み取り基準点は原稿のセット方法により、次の図の位置になります。

① 原稿ガラスにセットしたとき

② 自動原稿送り装置(ADF)にセットしたとき

Y方向（ヨコ）は432mmまで、X方向（タテ）は297mmまで読み取りできます。読み取りエリアがこの範囲に収まるように設定してください。

5 すべての長さを入力したら［OK］を押します。

6 手順 4 で設定した読み取りエリアの範囲（X3とY3の長さ）が［不定形］の横に表示されていることを確認し、［OK］を押します。

7 ［終了］を押します。

初期設定/カウンター画面に戻ります。

8 ［終了］を押します。

通常画面に戻ります。

登録内容を消去する

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

初期設定/カウンター画面が表示されます。

2 ［スキャナー初期設定］を押します。

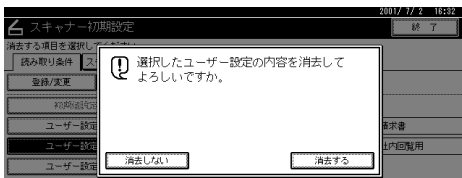
スキャナー初期設定画面が表示されます。

3 ［読み取り条件］タブが表示されていることを確認します。

4 ［消去］を押します。

5 消去する読み取り条件を選択します。

消去を確認するメッセージが表示されます。

6 ［消去する］を押します。

選択した読み取り条件の内容が消去されます。

7 ［終了］を押します。

初期設定/カウンター画面に戻ります。

8 ［終了］を押します。

通常画面に戻ります。

スキャナーの使用条件を設定する

ネットワークTWAINスキャナーとネットワーク配信スキャナー/ドキュメントボックスを切り替えるための設定、読み取った画像データの圧縮程度、原稿セットに関する初期値を設定します。

スキャナー設定の各項目の内容は以下のとおりです。設定項目の一覧と工場出荷時の設定については、P.17「スキャナー初期設定」を参照してください。

❖ 配信・蓄積/TWAIN優先設定

本機の操作パネルの【**スキャナー**】キーを押してスキャナー機能を選択したときに、ネットワークTWAINスキャナーのモードになるか、ネットワーク配信スキャナーまたはドキュメントボックスのモードになるかを「配信・蓄積」と「TWAIN」から選択します。

補足

❒「TWAIN」を選択すると、ネットワークTWAINスキャナーのモードに切り替わるようになります。この場合、画面の［接続解除］キーを押すことにより、ネットワーク配信スキャナーまたはドキュメントボックスのモードに切り替えることができます。

❒「配信・蓄積」を選択すると、ネットワーク配信スキャナーまたはドキュメントボックスのモードに切り替わるようになります。この場合、操作パネルからはネットワークTWAINスキャナーのモードに切り替えることができません。ネットワークTWAINスキャナーのモードに切り替えるには、読み取りを行うパソコンからTWAINドライバーを使って本機にアクセスしてください。

❖ 配信・蓄積/TWAIN切り替え時間

ネットワーク配信スキャナーまたはドキュメントボックスのモードで本機を使用中にパソコンからTWAINスキャナーとしての読み取り要求があった場合、常にTWAINスキャナーのモードに切り替えるか、一定時間キー操作をしていないときだけ切り替えるかを選択します。

- 「即時」を選択すると、ネットワークTWAINスキャナーのモードにすぐに切り替わります。

- 「指定時間後」を選択したときは、切り替えるための秒数（3〜30秒）をテンキーで入力してください。最後のキー操作を行ってからここで設定した時間が経過しているときだけ TWAIN スキャナーのモードに切り替わります。

❖ 圧縮設定（白黒2値）

2値（白黒）で読み取った原稿のデータを圧縮する/しないを設定します。データを圧縮することにより、配信サーバーへのデータの転送時間が短くなります。

補足

- ❒ データのサイズやネットワークの状態によって、データの転送にかかる時間は異なります。

❖ 圧縮設定（グレースケール/フルカラー）

多値（グレースケール）、フルカラーで読み取った原稿のデータを圧縮する程度を設定します。「標準画質」、「低画質」、「高画質」、「圧縮しない」から選択します。

補足

- ❒ 「低画質」→「標準画質」→「高画質」→「圧縮しない」の順に画質がよくなりますが、データの転送時間は長くなります。
- ❒ データのサイズやネットワークの状態によって、データの転送にかかる時間は異なります。

❖ 配信オプション

本機をネットワーク配信スキャナーとして使用する/しないを設定します。
この項目を「あり」に設定したときは、システム初期設定の「配信サーバー IPアドレス」の設定も必要です。

❖ 優先原稿面/ひらき方向

原稿がセットされた状態の初期値を設定します。いつも同じ状態で原稿をセットするときは、あらかじめ初期値として設定しておくことができます。「片面」、「両面：左右ひらき」、「両面：上下ひらき」から選択します。

参照

⇒ P.39「原稿のセット方向と読み取り面を設定する」

❖ 優先原稿セット方向

原稿のセット方向の初期値を選択します。いつも同じ状態で原稿をセットするときは、あらかじめ初期値として設定しておくことができます。

参照

⇒ P.39「原稿のセット方向と読み取り面を設定する」

❖ 原稿サイズ混載優先

サイズの異なる原稿が自動原稿送り装置(ADF)に混載されていても、それぞれの原稿サイズを自動検知して読み取りする/しないの初期値を設定します。

補足

- ❒ 読み取り時に原稿サイズを指定した場合、サイズ混載の設定は無効になります。

❖ SADFオートリセット時間設定

自動原稿送り装置 (ADF) の原稿がすべて読み取られたあとに次の原稿をセットしたとき、1つの文書として読み取るかどうかを設定します。

- 「しない」を選択したときは、自動原稿送り装置 (ADF) の原稿がすべて読み取られた時点で1文書の読み取りが終了します。
- 「する」を選択したときは、SADFオートリセット時間の秒数（3〜99秒）をテンキーで入力してください。この時間内に原稿がセットされると、1つの文書として読み取られます。

補足

- ❒ 本機に自動原稿送り装置(ADF)が装着されていない場合、この設定項目は表示されません。

設定の操作手順

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

初期設定/カウンター画面が表示されます。

2 ［スキャナー初期設定］を押します。

スキャナー初期設定画面が表示されます。

3 ［スキャナー設定］タブを押します。

4 設定する項目を押します。

選んだ項目の設定を変更する画面が表示されます。

ここでは「圧縮設定（グレースケール/フルカラー）」を選択した場合を例に説明しています。

5 設定を変更します。

- 項目を選択して設定する場合は、直接その項目を押します。押した項目が反転表示されます。
- 数値を入力して設定する場合は、テンキーで入力します。

補足

- ❒ 設定内容を取り消すときは、［取消］を押してください。設定値が変更されずに［設定］を押す前の表示に戻ります。

6 ［設定］を押します。

7 手順 4 〜 6 を繰り返して必要な項目を設定します。

8 ［終了］を押します。

初期設定/カウンター画面に戻ります。

9 ［終了］を押します。

通常画面に戻ります。

配信文書の件名を登録する

文書に付ける件名を登録できます。配信時に選択した件名は配信する文書の情報として記録されます。また、別売の「Ridoc Document Router」で文書をメールで配信するとき、メールの件名(Subject) 欄にタイトルとして自動的に入力されます。同じ内容の文書をよく配信するときは、あらかじめ件名を登録しておくと配信するときに簡単に選択できます。

件名は半角で16文字、全角で8文字以内で、12件まで登録できます。

補足

- ❒ 文書をメールで配信するためには、別売の「Ridoc Document Router」が必要です。
- ❒ 件名設定は、スキャナー初期設定の「配信オプション」を「あり」に設定したときに設定できます。

2

登録の操作手順

件名の設定方法を説明します。

1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

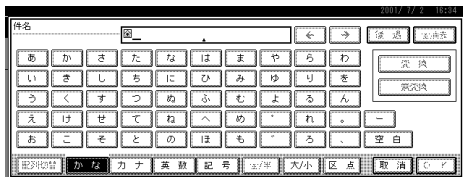
初期設定/カウンター画面が表示されます。

2 ［スキャナー初期設定］を押します。

スキャナー初期設定画面が表示されます。

3 ［件名設定］タブを押します。

4 ［登録/変更］が選択されていることを確認し、登録する件名を選択します。

5 件名を入力します。

制限

❒ 半角カナは入力できません。

参照

文字の入力方法については、「ファクス機能 基本編」を参照してください。

補足

❒ すでに件名が登録されている項目を選択した場合は、件名を修正します。

6 ［OK］を押します。

7 件名を複数登録するときは手順 4 〜 6 を繰り返します。

8 ［終了］を押します。

初期設定/カウンター画面に戻ります。

9 ［終了］を押します。

通常画面に戻ります。

登録内容を消去する

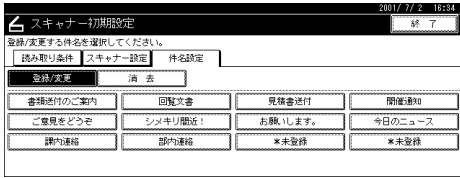
1 【初期設定/カウンター】キーを押します。

初期設定/カウンター画面が表示されます。

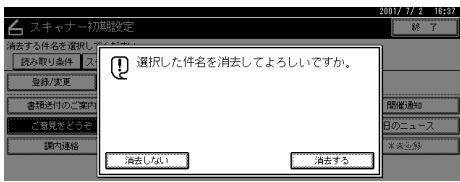
2 ［スキャナー初期設定］を押します。

スキャナー初期設定画面が表示されます。

3 ［件名設定］タブを押します。

4 ［消去］を押します。

5 消去する件名を押します。

消去を確認するメッセージが表示されます。

6 ［消去する］を押します。

選択した件名が消去されます。

7 件名を複数消去するときは手順5～6を繰り返します。

8 ［終了］を押します。

初期設定/カウンター画面に戻ります。

9 ［終了］を押します。

通常画面に戻ります。

2

ソフトウェアをインストールする

本製品には、CD-ROMが2枚付属しています。

ここではCD-ROM「スキャナードライバー＆ユーティリティ」に収録されているソフトウェアについて説明します。

オートランプログラムについて

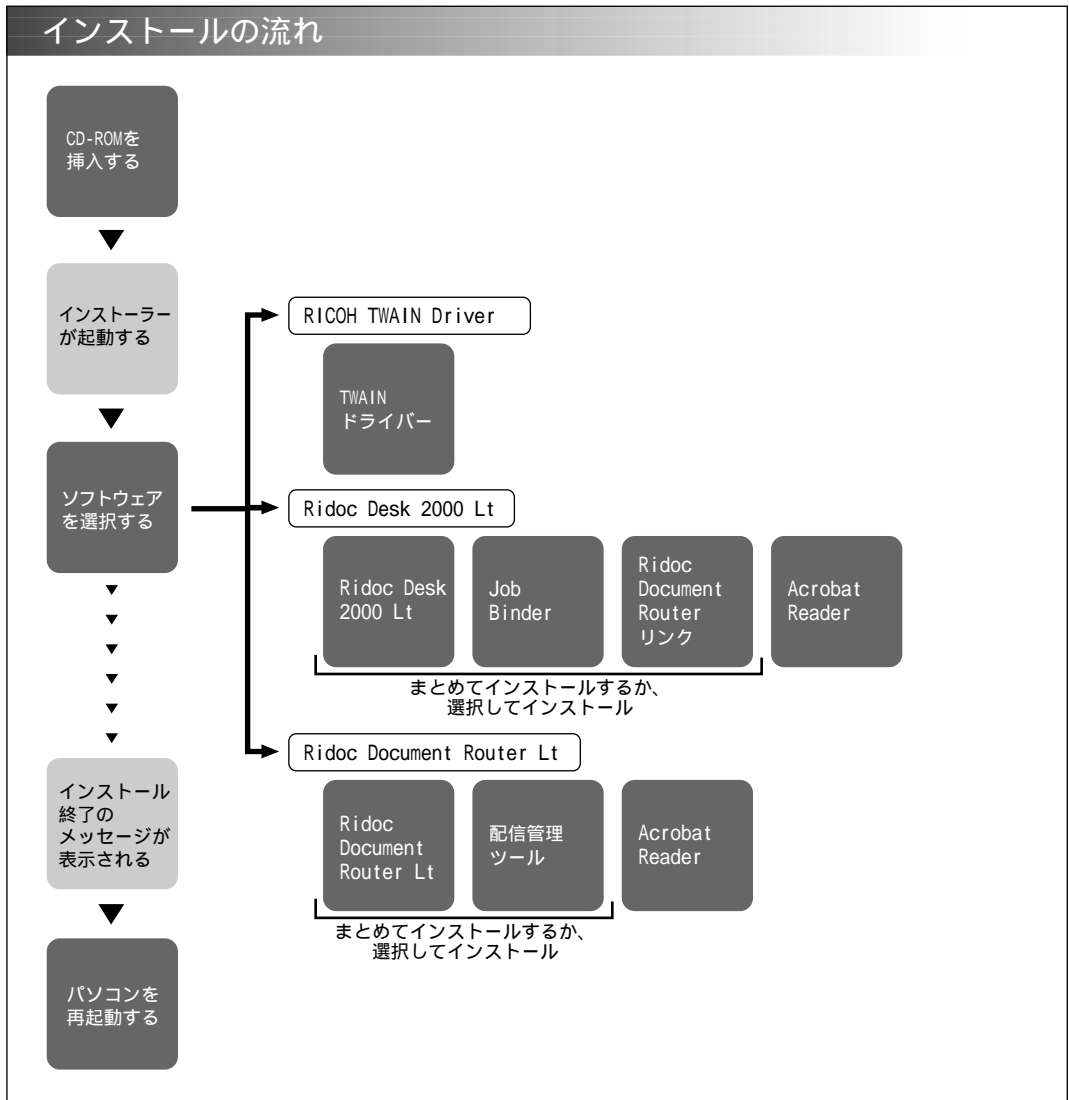
Windows95/98/Me、Windows2000、WindowsNT4.0上でCD-ROMをパソコンにセットすると、インストーラーが自動的に起動（オートラン）し、TWAINドライバーや各種ソフトウェアのインストールを行うことができます。

補足

- ❒ OSの設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROMのルートディレクトリにある「CDLaunch.EXE」を起動してください。
- ❒ オートランを無効にしたいときは、**Shift**キーを押しながらCD-ROMをセットし、パソコンがCD-ROMをアクセスし終わるまで**Shift**キーを押したままにします。
- ❒ インストールの途中で［キャンセル］を押すと、以降のすべてのソフトウェアのインストールが中止されます。キャンセルした場合は、再起動後、残りのソフトウェアをインストールし直してください。

制限

- ❒ Windows2000またはWindowsNT4.0でインストールするときは、Administratorsグループのメンバーとしてログオンしてください。

オートランプログラムでのインストールの流れは次のとおりです。

オートランでインストールできるソフトウェアの概要については、P.31「CD-ROM収録ソフトウェア」を参照してください。

ネットワークTWAINスキャナーを使うためのソフトウェア

ネットワークTWAINスキャナーを使用するには、TWAINドライバーをインストールする必要があります。

また、TWAIN対応アプリケーションをお持ちでない場合は、Ridoc Desk 2000 Ltもインストールする必要があります。Ridoc Desk 2000 Ltのインストールについては、P.30「Ridoc Desk 2000 Lt」を参照してください。

操作の前に

インストールを始める前にTWAINドライバーの動作環境を確認してください⇒ P.31「RICOH TWAIN ドライバー」。

Windows95/98/Me、Windows2000、WindowsNT4.0をお使いの場合

インストールはオートランプログラムを使用して行います。ここでは、Windows98の操作例を使用しています。Windows95/Me、Windows2000、WindowsNT4.0でも基本的な操作は同じです。

1 Windowsが起動していることを確認し、「スキャナードライバー&ユーティリティ」CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

インストーラーが起動し、［CD-ROM Launcher］画面が表示されます。

参照

インストーラーが自動的に起動しない場合は、P.26「オートランプログラムについて」を参照してください。

2 ［TWAIN Driver Ver.3］をクリックします。

3 TWAINドライバーのインストーラーが起動します。メッセージにしたがって操作してください。

補足

- インストールが終了したときに、パソコンを再起動するように指示するメッセージが表示されることがあります。この場合は、パソコンを再起動してから操作を続けてください。
- インストールが終わると、スタートメニューの「プログラム」フォルダに「RICOH TWAIN for IPSiO Color 8100」フォルダが作成され、ここからヘルプを表示できます。また、「Readme.txt」には、ネットワークTWAINスキャナーを使う上での注意事項などが書かれていますので、使用する前に必ずお読みください。

ネットワーク配信スキャナーを使うためのソフトウェア

ネットワーク配信スキャナーを使うには、配信サーバーにするパソコンにRidoc Document Router Ltをインストールする必要があります。受信トレイを確認したり、文書を引き取るには、クライアントコンピュータにRidoc Desk 2000 Ltをインストールする必要があります。また、Ridoc Document Router リンクだけをクライアントコンピュータにインストールして、文書を引き取ることもできます。

インストールはオートランプログラムを使用して行います。ここでは、Windows98の操作例を使用しています。Windows95/Me、Windows2000、WindowsNT4.0でも基本的な操作は同じです。

操作の前に

インストールを始める前に各ソフトウェアの動作環境を確認してください⇒ P.31「CD-ROM収録ソフトウェア」。

1 Windowsが起動していることを確認し、「スキャナードライバー & ユーティリティ」CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

インストーラーが起動し、［CD-ROM Launcher］画面が表示されます。

2 インストールするソフトウェアのボタンをクリックします。

- ［Ridoc Document Router Lt］をクリックすると［Ridoc Document Router Ltセットアップ］画面が表示されます。
- ［Ridoc Desk 2000 Lt］をクリックすると［Ridoc Desk 2000 Ltセットアップ］画面が表示されます。

参照

このあとのインストール手順については、それぞれのソフトウェアのセットアップ画面から表示するセットアップガイドを参照してください。

ドキュメントボックスを使用するために必要なソフトウェア

ドキュメントボックスに蓄積された文書を閲覧するには、パソコンにRidoc Desk 2000 Ltをインストールする必要があります。「Ridoc Desk 2000 Lt」を参照してインストールしてください。

Ridoc Desk 2000 Lt

インストールはオートランプログラムを使用して行います。ここでは、Windows98の操作例を使用しています。Windows95/Me、Windows2000、WindowsNT4.0でも基本的な操作は同じです。

操作の前に

インストールを始める前にRidoc Desk 2000 Ltの動作環境を確認してください⇒ P.32 「Ridoc Desk 2000 Lt」。

1 Windowsが起動していることを確認し、「スキャナードライバー & ユーティリティ」CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

インストーラーが起動し、［CD-ROM Launcher］画面が表示されます。

2 ［Ridoc Desk 2000 Lt］をクリックします。

［Ridoc Desk 2000 Ltセットアップ］画面が表示されます。

参照

このあとのインストール手順については、Ridoc Desk 2000 Ltのセットアップ画面から表示するセットアップガイドを参照してください。

CD-ROM収録ソフトウェア

ファイル一覧

<table>
<tr><td rowspan="11">CD-ROM Drive</td><td colspan="4">TWAINドライバーとユーティリティのインストーラーです。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Drivers</td><td>TWAIN</td><td>JAPANESE</td><td>Windows95/98/Me、Windows2000、WindowsNT4.0用TWAINドライバー</td></tr>
<tr><td>PCFAX</td><td colspan="2">PCFAXドライバー *1</td></tr>
<tr><td rowspan="8">UTILITY</td><td rowspan="4">RidocDsk</td><td>RidocDsk</td><td>Ridoc Desk 2000 Lt</td></tr>
<tr><td>JobBind</td><td>Job Binder</td></tr>
<tr><td>ICSL</td><td>Ridoc Document Router リンク</td></tr>
<tr><td>Acrobat</td><td>Acrobat Reader 4.05 日本語版</td></tr>
<tr><td rowspan="3">RDRouter</td><td>D_lite</td><td>Ridoc Document Router Lt</td></tr>
<tr><td>ddsadmin</td><td>配信管理ツール</td></tr>
<tr><td>Acrobat</td><td>Acrobat Reader 4.05 日本語版</td></tr>
<tr><td>ADDRESS</td><td colspan="2">あて先編集ツール *1</td></tr>
</table>

*1 **ファクス機能用のソフトウェアです。使いかたについては、「ファクス機能 応用編」を参照してください。**

RICOH TWAIN ドライバー

リコー製のスキャナーから原稿を読み取るために必要なドライバーです。

本機をネットワークTWAINスキャナーとして利用するためには、必ずインストールする必要があります。

❖ ファイル格納場所

CD-ROM内の次のフォルダに格納されています。

\DRIVERS\TWAIN\JAPANESE

❖ 動作環境

- コンピュータ本体
  PC/AT互換機
  NEC PC-9800シリーズ、PC-9821シリーズ、PC98-NXシリーズ

制限

❒ WindowsNTで使用する場合、RISCベースのプロセッサ（MIPS Rシリーズ、Alpha AXP、PowerPC）環境では動作しません。

- 対象OS
  Microsoft® Windows® 95 日本語版
  Microsoft® Windows® 98 日本語版
  Microsoft® Windows® Millennium Edition 日本語版
  Microsoft® Windows® 2000 Server 日本語版
  Microsoft® Windows® 2000 Professional 日本語版
  Microsoft® Windows NT® Server 4.0 日本語版（Service Pack 5以上）
  Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0 日本語版（Service Pack 5以上）

- ディスプレイ
  800×600ドット　256色以上
- ネットワークプロトコル
  TCP/IP

Ridoc Desk 2000 Lt

スキャナーで読み取った画像データ、アプリケーションで作成したファイル、既存のイメージファイルなど、多様なデータを統合して管理できるソフトウェアで、クライアントのパソコンにインストールします。本機をネットワークTWAINスキャナーとして使って画像を読み取ったり、配信サーバーの受信トレイに保存された文書を閲覧することができます。また、ドキュメントボックスに蓄積した文書を閲覧することができます。

詳しくはRidoc Desk 2000 Lt関連の説明書またはRidoc Desk 2000 Ltのヘルプを参照してください。

❖ ファイル格納場所

CD-ROM内の次のフォルダに格納されています。

\UTILITY\RIDOCDSK

❖ 動作環境

- コンピュータ本体
  PC/AT互換機
- CPU
  Pentium 133MHz以上（PentiumⅡ 266MHz以上推奨）
- 対象OS
  Microsoft® Windows® 95 日本語版（OSR 2以上）
  Microsoft® Windows® 98 日本語版
  Microsoft® Windows® Millennium Edition 日本語版
  Microsoft® Windows® 2000 Server 日本語版（Service Pack 1以上）
  Microsoft® Windows® 2000 Professional 日本語版（Service Pack 1以上）
  Microsoft® Windows NT® Server 4.0 日本語版（Service Pack 5以上）
  Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0 日本語版（Service Pack 5以上）
- 内蔵メモリ
  48Mバイト以上（64Mバイト以上推奨）
- ハードディスク容量
  50Mバイト以上（200Mバイト以上推奨）
- ディスプレイ
  800×600ドット（64K色以上推奨）
- ネットワークプロトコル
  TCP/IP

❖ Ridoc Desk 2000 Ltと共にインストールされるソフトウェア

- Ridoc Document Router リンク
  クライアントコンピュータから配信サーバーを定期的に監視し、受信トレイに配信された文書を引き取ったり、配信されたことをユーザーに通知します。

Ridoc Document Router Lt

配信サーバーにインストールするソフトウェアです。本機で読み取られた文書を配信サーバー上で仕分けして、指定された受信トレイに保存したり、同一ネットワーク上にあるクライアントコンピュータのフォルダに配信したりします。

詳しくはRidoc Document Router Lt関連の説明書またはRidoc Document Router Ltのヘルプを参照してください。

❖ ファイル格納場所

CD-ROM内の次のフォルダに格納されています。

\UTILITY\RDROUTER

❖ 動作環境

Ridoc Document Router Ltを使用するには、以下の環境が必要です。

補足

❒ Windows NT ServerやWindows 2000 Serverの場合、スタンドアロンサーバーにインストールしてください。プライマリドメインコントローラやバックアップドメインコントローラにはインストールしないでください。

- コンピュータ本体
  PC/AT互換機
- CPU
  Pentium 200MHz以上（PentiumⅡ 350MHz以上推奨）
- 対象OS
  Microsoft® Windows® 95 日本語版（OSR 2以上）
  Microsoft® Windows® 98 日本語版
  Microsoft® Windows® Millennium Edition 日本語版
  Microsoft® Windows® 2000 Server 日本語版 （Service Pack 1以上）
  Microsoft® Windows NT® Server 4.0 日本語版（Service Pack 5以上）
- 内蔵メモリ
  64Mバイト以上（128Mバイト以上推奨）
- ハードディスク容量
  インストール先に必要な最小容量200Mバイト

  補足

  ❒ インストール用の容量に加え、文書保存先には500Mバイト以上を確保してください。
- ネットワークプロトコル
  TCP/IP

❖ Ridoc Document Router Ltと共にインストールされるソフトウェア

- 配信管理ツール
「配信管理ツール」は、Ridoc Document Router Ltを使用した配信システムを管理するためのソフトウェアです。
スキャナーで読み取られた文書の配信先と送信者の情報を配信サーバーに登録したり、配信サーバーの空きディスク容量の監視やエラーログの記録などのメンテナンス操作を行います。

補足

❒ 配信管理ツールは配信サーバーだけでなくクライアントのパソコンにもインストールできます。インストーラーの「Ridoc Document Router Lt セットアップ」画面で、［Ridoc Document Router Lt 配信管理ツール］をクリックしてインストールしてください。

3. 原稿のセットのしかた

この章では、原稿ガラスと自動原稿送り装置(ADF)への原稿セットの方法と、セットのしかたに応じた原稿面と方向の設定について説明します。

読み取った原稿の天地（上下）をパソコン上で正しく表示させるには、原稿をセットする向きと、操作パネルまたはスキャナードライバーでの設定を正しく組み合わせる必要があります。

原稿のセット方向は2通りあります。以下の表を参考に正しくセットしてください。

補足

- 原稿サイズは通常縦長（R）または横長（R）ですが、以下の表では原稿をセットする向きを分かりやすくするため、正方形の原稿で説明しています。実際にセットする原稿のサイズが変わっても、原稿をセットする向きと、操作パネルまたはスキャナードライバーで指定する向きの組み合わせは変わりません。

1 読み取る原稿		R			
2 セット方法を選択する		原稿ガラスにセットする		自動原稿送り装置(ADF)にセットする	
3 原稿をセットする（原稿セット方向には2通りあります）		原稿の上辺を原稿ガラスの左側にセット	原稿の上辺を原稿ガラスの奥側にセット	原稿の上辺からセット	原稿の上辺が奥側になる向きにセット
4 向きを指定する	配信スキャナーまたはドキュメントボックスで読み取るとき（操作パネルで指定）	原稿セット方向 サイズ混載	原稿セット方向 サイズ混載	原稿セット方向 サイズ混載	原稿セット方向 サイズ混載
	TWAINスキャナーで読み取るとき（スキャナーコントロールダイアログで指定）				
5 パソコンに表示される原稿		R			

原稿ガラスに原稿をセットする

原稿ガラスを使うと、切り張りした原稿や本など、自動原稿送り装置 (ADF) にセットできない原稿でも読み取ることができます。

補足

❒ 原稿ガラスにセットできる原稿については「コピー機能 応用編」を参照してください。

3

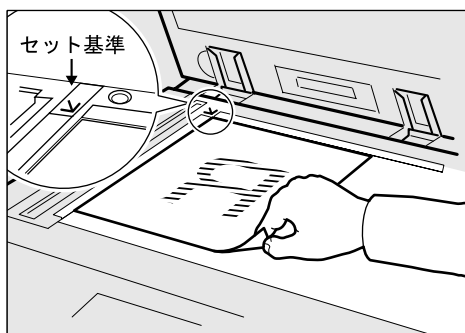
1 原稿カバーまたは自動原稿送り装置(ADF)を持ち上げます。

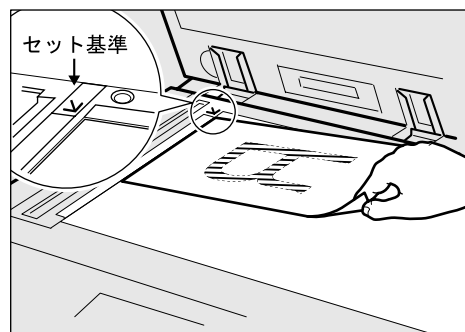
補足

❒ 原稿カバーまたは自動原稿送り装置 (ADF) の開閉で原稿サイズを検知しますので、30度以上の角度で確実に開けてください。

2 読み取る面を下にし、左奥のセット基準に原稿を合わせてセットします。

原稿は2通りのセット方向があります。どちらの方向にもセットできます。

❶ 原稿の上辺が原稿ガラスの奥側になる向きでセットします。

❷ 原稿の上辺が原稿ガラスの左側になる向きでセットします。

ネットワークTWAINスキャナーとして使用するときは、このセット方向がTWAINドライバーの標準の設定となっています。通常はこの方向にセットしてください。

3 原稿カバーまたは自動原稿送り装置(ADF)を閉めます。

4 セットした向きに応じて原稿のセット方向を選択します。

参照

⇒ P.39「原稿のセット方向と読み取り面を設定する」

自動原稿送り装置(ADF)に原稿をセットする

自動原稿送り装置(ADF)には、一度に複数枚の原稿をセットすることができます。自動原稿送り装置(ADF)にセットした原稿は、片面だけでなく両面を読み取ることもできます。

❖ **自動原稿送り装置(ADF)にセットできる原稿とセットできない原稿**

自動原稿送り装置(ADF)にセットできる原稿とセットできない原稿については、「コピー機能 応用編」を参照してください。

セットできない原稿を使用すると、原稿がつまったり、破損の原因となることがあります。このような原稿は原稿ガラスにセットしてください。

重要

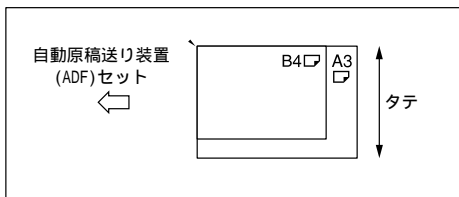
❒ 自動的に検知できる原稿サイズ、自動原稿送り装置(ADF)に原稿をセットするときの注意事項については「コピー機能 応用編」を参照してください。

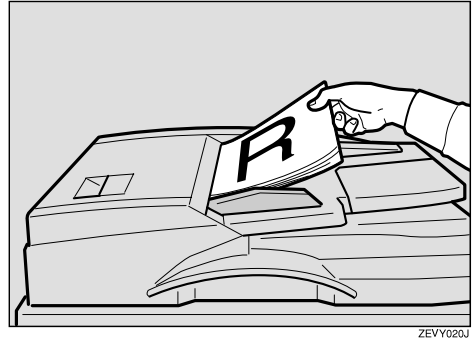
1 原稿ガイドを原稿サイズに合わせます。

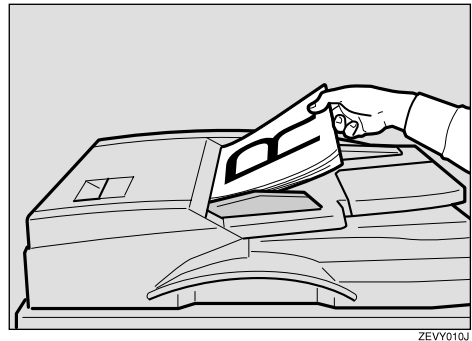
2 読み取る面を上(両面を読み取るときはおもて面を上)にし、原稿をそろえてセットします。

原稿は2通りのセット方向があります。どちらの方向にもセットできます。

補足

❒ ネットワーク配信スキャナーとドキュメントボックスの使用時は、サイズの異なる原稿を同時にセットすることもできます。下図のようにセットしてください。

❒ 原稿はセットした上のページから順に読み取られます。

❶ **原稿の上辺が奥側になる向きでセットします。**

❷ **原稿の上辺からセットします。**

ネットワークTWAINスキャナーとして使用するときは、このセット方向がTWAINドライバーの標準の設定となっています。通常はこの方向にセットしてください。

3 セットした向きに応じて原稿のセット方向を選択します。

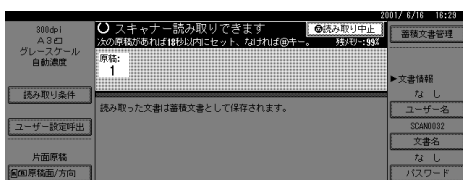
参照

⇒ P.39「原稿のセット方向と読み取り面を設定する」

3

自動原稿送り装置(ADF)に複数回に分けて原稿をセットする(SADF)

原稿を自動原稿送り装置 (ADF) にセットした場合、工場出荷時の設定では、すべての原稿が読み取られた時点で 1 つの文書として読み取りが終了します。SADFは、セットした原稿がすべて読み取られたあと一定時間内に次の原稿をセットすると、複数の原稿を1つの文書として読み取ることができる機能です。

原稿の読み取りが終了すると、次の原稿を受け付けるまでの残り時間が表示されます。

次の原稿があるときは時間内に原稿をセットしてください。セットすると自動的に原稿が送られ、読み取られます。次のページがないときは【#】キーを押します。

補足

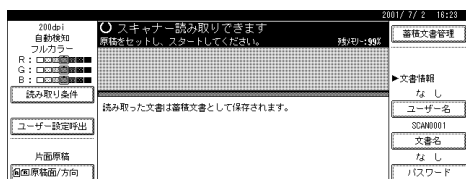
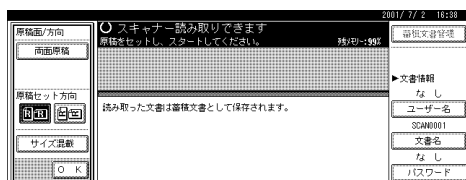
- ❒ この機能を使用するにはスキャナー初期設定の設定が必要です⇒ P.22「SADFオートリセット時間設定」。
- ❒ 原稿は読み取った順にまとめられます。先頭のページから順にセットしてください。

原稿のセット方向と読み取り面を設定する

読み取った原稿をパソコンのディスプレイで表示したときに原稿の天地（上下）が正しく表示されるようにするには、原稿のセットのしかたに合わせて原稿セット方向とひらき方向を設定する必要があります。

ネットワーク配信スキャナーとドキュメントボックスの使用時はスキャナーの操作パネルで設定します。ネットワークTWAINスキャナーの使用時はTWAINドライバー上で設定します。

ネットワーク配信スキャナー、ドキュメントボックスの場合

1 スキャナー機能の画面で［原稿面/方向］を押します。

2 片面原稿/両面原稿、原稿のセット方向、サイズ混載を設定します。

補足

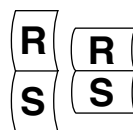
- ❒ 設定の初期値はスキャナー初期設定の「優先原稿面 / ひらき方向」、「優先原稿セット方向」、「原稿サイズ混載優先」で変更できます⇒ P.21「スキャナーの使用条件を設定する」。

片面/両面原稿の設定

❶ **片面原稿の場合は［両面原稿］が反転表示していないことを確認します。**

❷ **両面原稿の場合は［両面原稿］を押し、原稿のとじ方向に応じて［左右ひらき］または［上下ひらき］を選択します。**

左右ひらき：

上下ひらき：

原稿セット方向の選択

❶ **セットした原稿の向きと同じ方向のキー（またはを押します。**

サイズ混載の選択

❶ **サイズの異なる原稿をセットしたときは、［サイズ混載］が反転表示していることを確認します。**

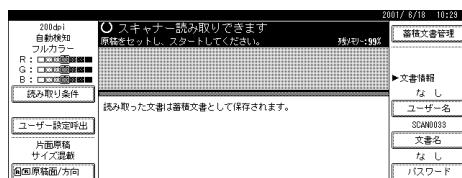
補足

- ❒ サイズ混載を設定しないと、一番最初に読み取った原稿が最大読み取りサイズになります。それより大きい原稿は読み取られない部分ができます。

3 ［OK］を押します。

補足

- ❒ 現在の設定が文字とアイコンで表示されます。

3

ネットワークTWAINスキャナーの場合

1 スキャナーコントロールダイアログを開きます。

参照

⇒ P.42 「原稿を読み取る」

2 ［原稿］グループ内の［セット個所］ボックスのドロップダウンメニューから原稿をセットした場所を選択します。

3 ［向き］で「/」または「/」を選択します。

参照

⇒ P.35 「原稿のセットのしかた」

4 自動原稿送り装置 (ADF) に原稿をセットしたときは、［読取面］ボックスのドロップダウンメニューから「片面」または「両面」を選択します。

補足

❒ 自動原稿送り装置（ADF）にサイズの異なる原稿をセットしたときは、［読取サイズ］ボックスで原稿サイズを指定してください。［自動検知（非混載）］を選択すると、すべてのページが 1 ページ目の幅で読み取られます。［自動検知（混載）］を選択すると、それぞれのページの幅で読み取られます。また原稿を読み取る長さは、混載、非混載どちらの場合も、それぞれの原稿の最終端までのサイズとなります。

3

4. ネットワークTWAINスキャナーで原稿を読み取る

この章では、ネットワークTWAINスキャナーを使って原稿を読み取る操作を、Ridoc Desk 2000 Ltを例に説明します。また、TWAINドライバーのおもな機能を紹介します。

操作の流れ

Ridoc Desk 2000 Ltを使用して原稿を読み取る場合の、基本的な操作の流れは次のとおりです。詳しい操作手順については、P.42 「原稿を読み取る」を参照してください。

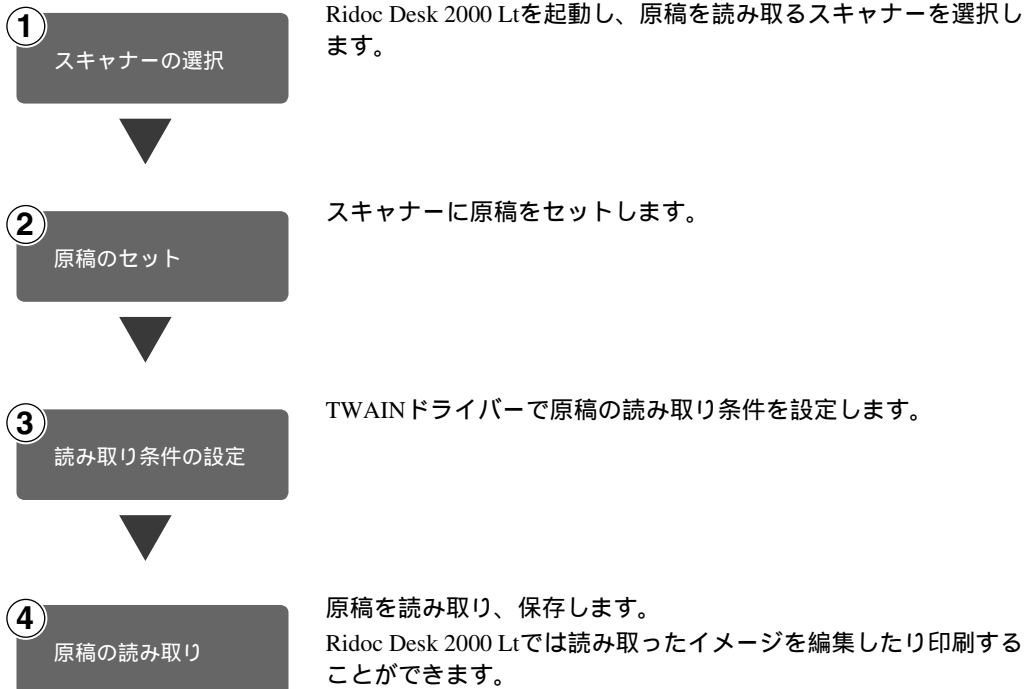
Ridoc Desk 2000 Ltを起動し、原稿を読み取るスキャナーを選択します。

2 原稿のセット

スキャナーに原稿をセットします。

TWAINドライバーで原稿の読み取り条件を設定します。

4 原稿の読み取り

原稿を読み取り、保存します。
Ridoc Desk 2000 Ltでは読み取ったイメージを編集したり印刷することができます。

原稿を読み取る

ここでは、1枚の原稿を読み取る方法をP.41「操作の流れ」に沿って説明します。

1 Ridoc Desk 2000 Ltを起動し、スキャナードライバーを選択します。

❶［スタート］ボタンをクリックし、［プログラム］をポイントし、［RICOH Ridoc Desk 2000］から［Ridoc Desk 2000］をクリックします。

Ridoc Desk 2000 Ltが起動します。

❷［ツール］メニューの［スキャナ設定］をクリックします。

［スキャナ設定］ダイアログボックスが表示されます。

既にスキャナーが選択されていれば次に変えるまでスキャナー選択は必要ありません。［スキャナ入力画像の保存ファイル形式］を確認し、手順❺に進んでください。

❸［スキャナ選択］をクリックします。

［ソースを選択してください］ダイアログボックスが表示されます。

❹［RICOH IPSiO Color 8150］をクリックし、［選択］をクリックします。

❺［OK］をクリックします。

［スキャナ設定］ダイアログボックスが閉じます。

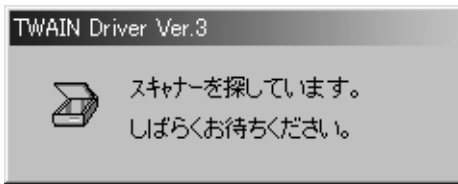
2 スキャナーに原稿をセットします。

参照

⇒ P.35「原稿のセットのしかた」

3 読み取り条件を設定します。

❶［ファイル］メニューの［文書登録］をポイントし、［スキャン］をクリックします。

TWAINドライバーが起動し、次のメッセージが表示されます。

しばらくすると、TWAINドライバーでスキャナーを操作するダイアログが表示されます。このダイアログを「スキャナーコントロールダイアログ」と呼びます。

補足

- ❒ タイトルバーには、現在接続されているスキャナー名が表示されます。ネットワーク上に複数のスキャナーがあるときは、スキャナー名が目的のスキャナーかどうか確認します。目的のスキャナーと異なる場合は［スキャナー選択］をクリックし、選択し直してください。
- ❒ 目的のスキャナーがリストに表示されないときは、スキャナーが正しくネットワークに接続され、IP アドレスが設定されているかどうか確認してください。それでもリストに表示されない場合は、ネットワーク管理者に相談してください。

❷ 原稿の種類や読み取る目的に応じて、［読取モード］のアイコンをクリックします。

- 「標準」は文字を主体とした標準的な原稿の読み取りに適しています。
- 「写真」は写真や濃淡のある図版などが含まれる原稿の読み取りに適しています。
- 「OCR」は読み取ったあとOCR（自動文字認識）アプリケーションで変換処理を行う場合に適しています。
- 「ファイリング」はファイリングアプリケーションなどで利用する場合に適しています。

［読取モード］のうち「標準」、「写真」はフルカラーで、「OCR」、「ファイリング」は白黒で読み取られます。

補足

- ❒ ［詳細］をクリックすると「詳細画面」に切り替わり、より詳しい条件設定を行うことができます。「詳細画面」についての詳しい説明は、TWAIN ドライバーのヘルプを参照してください。

❸ 原稿のセット場所と方向に合わせて、［原稿］グループの設定を変更します。

参照

⇒ P.39 「原稿のセット方向と読み取り面を設定する」

［原稿］グループの設定について詳しくはヘルプを参照してください。

原稿の特定の領域だけを読み取りたいとき

領域を指定しないときは、［読取サイズ］ボックスで指定したサイズで読み取られます。

❶ ［プレビュー］をクリックします。

セットした原稿が読み取られ、［プレビュー］ダイアログが表示されます。プレビューの読み取り領域は、一点鎖線で囲まれて表示されます。

❷ **一点鎖線の辺や頂点をドラッグし、読み取り領域を変更します。**

新たに領域を指定し直す場合は、［↖］をクリックし、領域の1つの頂点から対角の頂点までドラッグします。

補足

❒ 読み取りの解像度によっては、読み取り領域の大きさが制限される場合があります。解像度と読み取り領域の関係については、TWAIN　ドライバーのヘルプを参照してください。

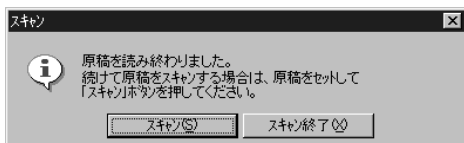
❸ **［閉じる］をクリックします。**

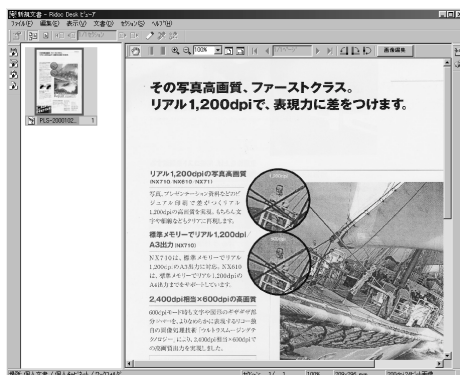
［プレビュー］ダイアログが閉じます。

補足

❒ 自動原稿送り装置 (ADF) にセットした原稿をプレビューしたときは、プレビュー時に読み取られた原稿をセットし直してください。

4 ［スキャン］をクリックします。

原稿が読み取られ、次の原稿があるかどうか確認するダイアログが表示されます。

次の原稿があるときは同じ場所に原稿をセットし、［スキャン］をクリックします。

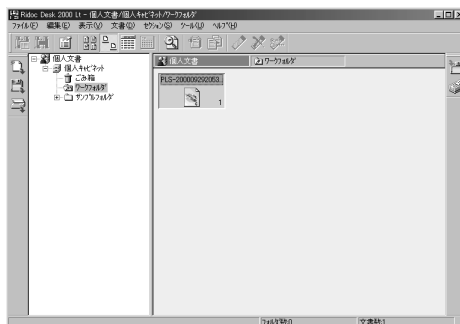
次の原稿がないときは［スキャン終了］をクリックします。

5 読み取ったイメージをRidoc Desk 2000 Ltに保存します。

❶ **［ファイル］メニューの ［終了］をクリックします。**

［文書情報の入力］ダイアログが表示されます。

❷ **文書名を入力し、［OK］をクリックします。**

Ridoc Deskビューアが閉じ、Ridoc Desk 2000 Ltにイメージが保存されます。

4

読み取った原稿を編集・印刷するには

Ridoc Desk 2000 Ltでは、読み取った原稿を編集したり印刷したりすることもできます。詳しい操作方法については、Ridoc Desk 2000 Ltのヘルプを参照してください。

こんな機能もあります

ここでは、TWAINドライバーが持つ多彩な機能のいくつかを紹介します。

参照

それぞれの機能の詳細やその他の機能については、ヘルプを参照してください。

❖ 傾き自動補正

原稿が傾いて読み取られた場合に、文字列がまっすぐになるように自動的に補正する機能です。

❖ イメージへの印字

読み取った原稿に日付、ページ番号、任意の文字列などを合成する機能です。読み取った順に通し番号を合成したり、合成する文字列のフォントを変更することもできます。

❖ 読み取りモードの登録

あらかじめ用意されている読み取りモードのほか、よく使う読み取り条件を登録しておく機能です。登録されている読み取り条件ですぐに読み取ることができます。

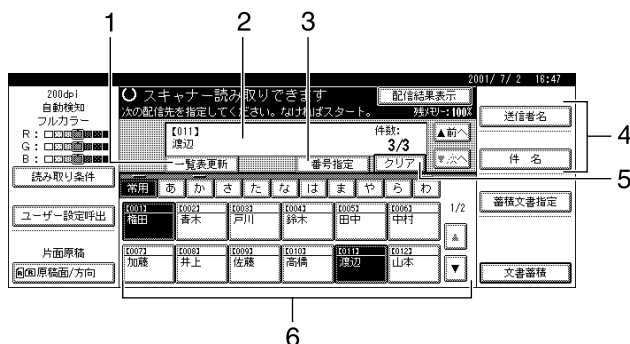
5. ネットワーク配信スキャナーで文書を配信する

ネットワーク配信スキャナーを使用すると、読み取った原稿を指定した配信先に配信できます。この章では、ネットワーク配信スキャナーを使用するときの画面表示、配信の操作手順、配信結果の確認方法について説明します。

補足

❒ ネットワーク配信スキャナーを使用するには、Ridoc Document Router / Ltをインストールした配信サーバーが必要です。あらかじめ配信サーバーに配信する配信先や送信者の情報を登録しておく必要があります。また、Ridoc Document Router / Ltの配信管理ツールの［I/O機器設定］で接続装置の登録を行なってください。詳しくは、Ridoc Document Router / Ltの配信管理ツールのヘルプを参照してください。

配信先・送信者名の一覧表示について

ネットワーク配信スキャナーを使用するときの画面の構成は、次のとおりです。

***1.* ［一覧表更新］**

ここを押すと配信サーバーから配信先の情報を取得し、表示を最新の情報に更新します。配信サーバー側で配信先を変更したときは、ここを押して更新してください。

***2.* 配信先表示欄**

選択された配信先が表示されます。配信先が複数選択されているときは、［▲前へ］または［▼次へ］を押すと、選択された配信先が順に表示されます。

補足

❒ 選択された配信先を確認するには**【設定確認】**キーを押します。

***3.* ［番号指定］**

配信先を3桁の短縮ID番号で指定するときに押します。

***4.* ［送信者名］［件名］**

配信する文書の送信者名と件名を設定します。

***5.* ［クリア］**

配信先表示欄に表示されている配信先の選択を解除します。また、短縮ID番号の入力を取り消すときにも押します。

***6.* 配信先の一覧**

配信サーバーに登録されている配信先の一覧が表示されます。

補足

❒ 一覧をすべて表示しきれない場合は、［▲］または［▼］を押して表示を切り替えます。

❒ グループの配信先には、グループを示すマーク（👥）が付きます。

❒ 選択された配信先が所属する見出しの上には、選択済みを示す横線のマークが表示されます。

配信の操作手順

読み取り条件と配信先を指定して文書を配信します。必要に応じ、送信者名と件名を選択することもできます。

1 【スキャナー】キーを押します。

2 ユーザーコードが設定されているときは、テンキーでユーザーコード（最大8桁）を入力し、[#] を押します。

スキャナー機能の画面が表示されます。

補足

❒ ネットワークTWAINスキャナーの画面が表示されたときは、［接続解除］を押します。ネットワークTWAINスキャナーの画面は、スキャナー初期設定の「配信・蓄積/TWAIN優先設定」でネットワークTWAINが優先に設定されていると表示されます。

3 前の設定が残っていないことを確認します。

補足

❒ 前の設定が残っているときは**【リセット】**キーを押します。

4 原稿をセットし、原稿面と用紙のセット方向を設定します。

参照

⇒ P.35 「原稿のセットのしかた」

5 読み取り条件を設定します。

読み取り条件を設定するには、あらかじめ登録しておいた設定を呼び出す方法と、それぞれの設定項目を個別に設定する方法があります。

参照

⇒ P.18 「読み取り条件を登録する」

登録済みの設定を呼び出すとき

❶ **［ユーザー設定呼出］を押します。**

ユーザー設定呼出画面が表示されます。

❷ **呼び出す設定を選択します。**

❸ **［OK］を押します。**

選択したユーザー設定の読み取り条件に切り替わります。

設定項目を個別に指定するとき

❶ **［読み取り条件］を押します。**

読み取り条件を設定する画面が表示されます。

❷ **解像度や読み取りサイズなどの設定項目を選択し、設定を変更します。**

読み取り条件の設定方法は、読み取り条件を登録するときの設定方法と同じです。P.18「読み取り条件を登録する」を参照してください。

❸ **［OK］を押します。**

読み取り条件が設定されます。

6 配信先を選択します。

配信先を選択するには、配信先一覧から選択する方法と、短縮ID番号を指定する方法があります。

配信先を一覧から選択するとき

❶ **［一覧表更新］を押して、配信先の一覧表を更新します。**

補足

- ❒ 配信サーバーに登録されている配信先の情報が更新されても、本機の操作パネルに表示される一覧は自動的に更新されません。いつも最新の情報で操作するには、文書を配信する前に操作パネルの［一覧表更新］を押して、表示されている情報を更新してください。
- ❒ 配信先や送信者名を選択したあと一覧表を更新すると、選択が解除されます。一覧表の更新は選択の前に行ってください。
- ❒ スキャナー内のメモリーに送信待機中の文書がある場合は、［一覧表更新］を押すことができません。

❷ **配信先が所属している見出しを押し、目的の配信先を表示します。**

目的の配信先が表示されていないときは、［▲］または［▼］を押して表示させます。

補足

- ❒ それぞれの配信先が所属する見出しは配信サーバーに登録されています。

❸ **文書の配信先を押します。**

選択された配信先は反転表示され、画面上部の配信先表示欄に表示されます。また、選択された配信先が所属している見出しの上に、選択済みを示す横線が表示されます。

補足

- ❒ 配信先の選択を解除するには、選択された配信先をもう一度押すか、［▲前へ］または［▼次へ］を押して目的の配信先を配信先表示欄に表示させ、［クリア］を押します。

❹ **複数の配信先を選択するときは、手順❸を繰り返します。**

短縮ID番号を指定して配信先を選択するとき

❶ **［番号指定］を押します。**

❷ **配信先ごとに設定されている3桁の短縮ID番号をテンキーで入力します。**

3桁以下の数値を入力したときは、最後に［#］を押します。

短縮ID番号に対応した配信先が、画面上部の配信先表示欄に表示されます。

補足

- ❒ 配信先の選択を解除するには、［▲前へ］または［▼次へ］を押して目的の配信先を配信先表示欄に表示させ、［クリア］を押します。

❸ **複数の配信先を選択するときは、手順❷を繰り返します。**

選択した配信先を確認するとき

❶ **画面上部の配信先表示欄で、選択された配信先を確認します。**

補足

- ❒ 配信先を複数選択したときは、［▲前へ］または［▼次へ］を押すと選択された配信先が順に表示されます。
- ❒ 操作パネルの【**設定確認**】キーを押すと、選択された配信先の一覧を確認できます。

7 必要に応じて、送信者（原稿の送信元）を選択します。

補足

- ❒ 送信者名を選択すると、配信する文書に送信者の情報が記録されます。また、別売の「Ridoc Document Router」で文書をメールで配信するとき、送信者の欄に自動的に入力され、メールを受信したときに誰から送信されてきたのか確認できます。送信者名は配信サーバーに登録されている送信者の中から選択します。

❶ **［送信者名］を押します。**

配信サーバーに登録されている送信者の一覧が表示されます。

❷ **送信者を選択します。**

- 見出しから送信者を選択するときの方法は、配信先の選択方法と同じです。手順6を参照してください。
- 短縮ID番号で送信者を指定するときは、3桁の短縮ID番号をテンキーで入力します。

❸ **［OK］を押します。**

送信者が設定されます。

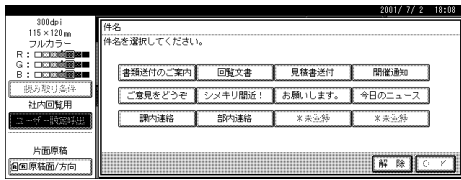
8 必要に応じて、件名を選択します。

件名はあらかじめ登録しておいた中から選択します⇒ P.23 「配信文書の件名を登録する」。

補足

- ❒ 選択した件名は配信する文書の情報として記録されます。また、別売の「Ridoc Document Router」で文書をメールで配信するとき、メールの件名(Subject)欄にタイトルとして自動的に入力されます。

❶ **［件名］を押します。**

❷ **設定する件名を押します。**

❸ ［OK］**を押します。**

件名が設定されます。

9 【スタート】キーを押します。

原稿が読み取られ、配信先に文書が配信されます。

原稿ガラスに原稿をセットした場合で、次のページがあるときは、原稿をセットして**【スタート】**キーを押します。

次のページがないときは**【#】**キーを押します。

補足

- ❒ 読み取りを中止するには**【クリア/ストップ】**キーまたは表示画面の［読み取り中止］を押します。
- ❒ SADF 機能を使う場合は、続けて次の原稿をセットします⇒ P.38「自動原稿送り装置(ADF)に複数回に分けて原稿をセットする(SADF)」。

配信結果を確認する

過去50件までの配信結果を確認できます。配信結果が50件を超えると、古い配信結果から順に消去されます。

重要

❒ 本機の主電源をオフにすると、配信結果はすべて消去されます。

❖ 確認できる項目

- 日時
  本機から配信サーバーへの文書の送信が完了した日時が記録されます。
  文書を送信できなかったときは、最後に送信を試みた日時が記録されます。
- 配信先
  複数の配信先を選択した場合は、1件目に選択された配信先が表示されます。
- 送信者名
- 文書名
- 原稿
  読み取ったページ数が記録されます。
- 結果
  正常に配信されたか、不達だったかが記録されます。

1 ネットワーク配信スキャナー機能の画面で［配信結果表示］を押します。

配信結果が表示されます。

2 配信結果を確認します。

補足

❒ 配信結果は一度に6件まで表示されます。［▲前へ］または［▼次へ］を押すと表示が切り替わります。

3 ［閉じる］を押します。

ネットワーク配信スキャナー機能の画面に戻ります。

5

ドキュメントボックスと組み合わせて使う

ネットワーク配信スキャナーとドキュメントボックスを組み合わせて使うことができます。

配信と蓄積を同時に行う

配信と同時に、読み取った原稿をドキュメントボックスに蓄積します。

補足

❒ ここでは配信と蓄積を同時に行う操作を中心に説明します。配信の詳しい操作手順については、P.48「配信の操作手順」を参照してください。

1 原稿をセットし、原稿面と用紙のセット方向を設定します。

参照

⇒ P.35 「原稿のセットのしかた」

2 読み取り条件を設定します。

3 配信先を選択します。

4 必要に応じて、送信者（原稿の送信元）と件名を選択します。

5 ［文書蓄積］を押します。

文書蓄積を設定する画面に切り替わります。

6 ［蓄積＋送信］が反転表示されていることを確認します。

7 ［文書情報指定］を押して、文書情報を設定します。

参照

文書情報の設定方法については、P.57「文書情報の設定」を参照してください。

8 ［OK］を押します。

9 【スタート】キーを押します。

原稿が読み取られ、配信先への文書の配信と、ドキュメントボックスへの蓄積が行われます。

蓄積されている文書を配信する

ドキュメントボックスに蓄積されているスキャナー機能で読み取った文書を配信します。

補足

❒ ここでは配信する文書の選択方法を中心に説明します。配信の詳しい操作手順については、P.48「配信の操作手順」を参照してください。

❒ 蓄積文書の配信時、読み取り条件は設定できません。文書はドキュメントボックスへの蓄積時に設定された読み取り条件で配信されます。

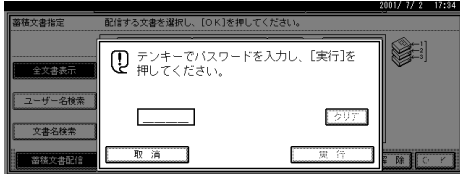
1 蓄積文書の一覧を表示します。

参照

⇒ P.59「蓄積された文書の一覧表示について」

2 配信する文書を選択します。

補足

- ❒ パスワードが指定されている文書を選択したときは、パスワードを入力する画面が表示されます。正しいパスワードを入力して［実行］を押すと、文書が選択されます。

3 **複数の文書を選択するときは、手順2を繰り返します。**

補足

- ❒ 文書は一度に30文書まで選択できます。
- ❒ 複数の文書を選択したときは、選択した順に配信されます。
- ❒［配信順］を押すと、選択した文書だけが配信順に表示されます。

4 **[OK]を押します。**

配信先の指定画面が表示されます。

5 **配信先を指定します。**

6 **必要に応じて、送信者（原稿の送信元）と件名を選択します。**

7 **【スタート】キーを押します。**

選択された蓄積文書が配信されます。

6. ドキュメントボックスを使う

ドキュメントボックスを使用すると、読み取った文書を本機のハードディスクに蓄積し、あとから文書を利用することができます。蓄積されている文書はクライアントのパソコンからRidoc Desk 2000 / Ltを使って閲覧したり、消去することができます。

制限

- ❒ ドキュメントボックスを使用するには、オプションの拡張HDD(40GB)が必要です。

補足

- ❒ ネットワーク上に配信サーバーが設置してある場合は、ドキュメントボックスに蓄積した文書を配信することができます。また、蓄積と配信を同時に行い、配信した文書をそのままドキュメントボックスに蓄積するといった使い方をすることもできます⇒ P.53「ドキュメントボックスと組み合わせて使う」。

文書を蓄積する

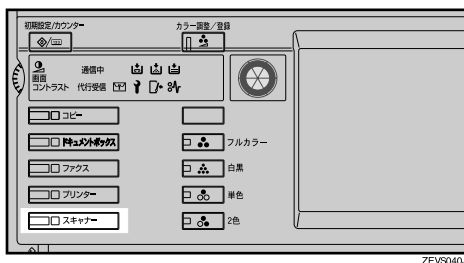
ここでは、文書をドキュメントボックスに蓄積する方法と、蓄積された文書に文書情報を指定する方法を説明します。

補足

- ❒ ドキュメントボックスに蓄積された文書は、一定日数経過後に自動的に消去するかどうか設定できます（「システム初期設定」、「管理者用設定」の「蓄積文書自動消去設定」）。工場出荷時は「3日」経過後に消去するように設定されています。設定、変更のしかたについては、「システム設定編2」を参照してください。
- ❒ 最大1,000文書（または最大2,000ページ）まで蓄積できます。ただし、コピー機能など他の機能で蓄積された文書数によって、蓄積できる文書数は異なります。
- ❒ 蓄積できるページ数は、1文書につき500ページまでです。
- ❒ スキャナー機能で蓄積した文書は印刷できません。

蓄積の操作手順

スキャナーで原稿を読み取り、文書としてドキュメントボックスに蓄積します。

1 **【スキャナー】キーを押します。**

2 **ユーザーコードが設定されているときは、テンキーでユーザーコード（最大8桁）を入力し、［#］を押します。**

スキャナー機能の画面が表示されます。

補足

- ❒ ネットワークTWAINスキャナーの画面が表示されたときは、［接続解除］を押します。ネットワークTWAINスキャナーの画面は、スキャナー初期設定の「配信・蓄積/TWAIN優先設定」でネットワークTWAINが優先に設定されていると表示されます。

3 前の設定が残っていないことを確認します。

補足

❒ 前の設定が残っているときは**【リセット】**キーを押します。

4 原稿をセットし、原稿面と用紙のセット方向を設定します。

参照

⇒ P.35 「原稿のセットのしかた」

5 読み取り条件を設定します。

読み取り条件を設定するには、あらかじめ登録しておいた設定を呼び出す方法と、それぞれの設定項目を個別に設定する方法があります。

参照

⇒ P.18 「読み取り条件を登録する」

登録済みの設定を呼び出すとき

❶ [ユーザー設定呼出] を押します。

ユーザー設定呼出画面が表示されます。

❷ 呼び出す設定を選択します。

❸ [OK] を押します。

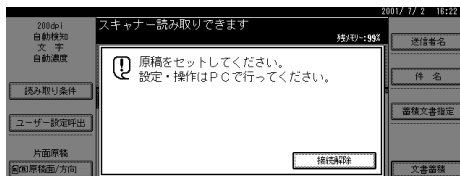
選択したユーザー設定の読み取り条件に切り替わります。

設定項目を個別に指定するとき

❶ [読み取り条件] を押します。

読み取り条件を設定する画面が表示されます。

❷ 解像度や読み取りサイズなどの設定項目を選択し、設定を変更します。

読み取り条件の設定方法は、読み取り条件を登録するときの設定方法と同じです。P.18 「読み取り条件を登録する」を参照してください。

❸ [OK] を押します。

読み取り条件が設定されます。

6 ネットワーク配信スキャナー機能を使用しているときは、文書を蓄積する設定をします。

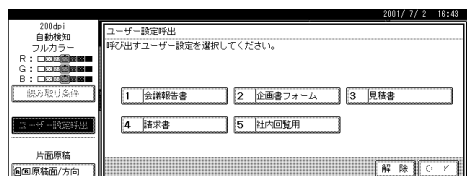
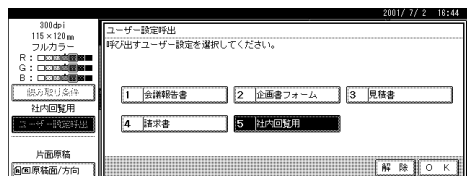
ネットワーク配信スキャナー機能を使用していないとき、この操作は必要ありません。手順7に進んでください。

❶ [文書蓄積] を押します。

文書蓄積を設定する画面に切り替わります。

❷ [蓄積のみ] を押します。

補足

❒ [蓄積+配信] を押すと、蓄積と配信を同時に行うことができます⇒ P.53 「ドキュメントボックスと組み合わせて使う」。

❸ [OK] を押します。

7 文書情報を設定します。

蓄積する文書にユーザー名、文書名、パスワードの情報を設定できます。

参照

文書情報の設定方法については、P.57「文書情報の設定」を参照してください。

8 【スタート】キーを押します。

原稿が読み取られ、ドキュメントボックスに文書が蓄積されます。

原稿ガラスに原稿をセットした場合で、次のページがあるときは、原稿をセットして **【スタート】** キーを押します。

次のページがないときは、**【#】** キーを押します。

補足

- ❒ 読み取りを中止するには **【クリア/ストップ】** キーまたは表示画面の［読み取り中止］を押します。
- ❒ SADF機能を使う場合は、続けて次の原稿をセットします⇒P.38「自動原稿送り装置(ADF)に複数回に分けて原稿をセットする(SADF)」。

文書情報の設定

蓄積する文書に、ユーザー名、文書名、パスワードの情報を設定できます。

文書情報を設定しておくことにより、ユーザー名や文書名で目的の文書を検索したり、蓄積された文書を他の人が操作できないようにパスワードで管理したりできます。

補足

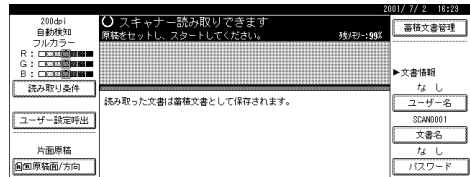
- ❒ 文書名は半角64文字まで、ユーザー名は半角20文字までそれぞれ入力でき、操作パネルには先頭から半角16文字までが表示されます。Ridoc Desk 2000 / Ltを使用してクライアントのパソコン側で文書を閲覧したときは、入力したすべての文字を確認できます。

1 ネットワーク配信スキャナー機能を使用しているときは、文書情報指定画面に切り替えます。

❶［文書蓄積］を押します。

❷［文書情報指定］を押します。

文書情報指定画面に切り替わります。

これはネットワーク配信スキャナー機能を使用していないときの画面例です。

これはネットワーク配信スキャナー機能を使用しているときの画面例です。

2 文書情報を設定します。

ユーザー名を設定するとき

❶［ユーザー名］を押します。

ユーザー名選択画面が表示されます。

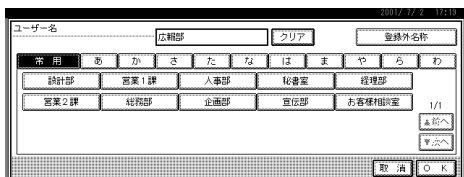
補足

- ❒ システム初期設定の管理者用設定でユーザー名が１件も登録されていないと、ユーザー名選択画面は表示されません。登録外名称入力画面が表示されますので、ユーザー名を入力してください。

❷ 設定するユーザー名を押します。

補足

- ❒ ここに表示されているユーザー名は、システム初期設定の管理者用設定で登録されたユーザー名です。ここに表示されていない名称を設定するときは、［登録外名称］を押してユーザー名を入力します。

6

❸［OK］を押します。

ユーザー名が設定されます。

文書名を設定するとき

読み取った文書には「SCAN0001」「SCAN0002」と文書名が自動的に付けられます。この文書名を変更できます。

❶［文書名］を押します。

文書名入力画面が表示されます。

❷ 文書名を入力します。

参照

文字の入力方法については、「ファクス機能 基本編」を参照してください。

❸［OK］を押します。

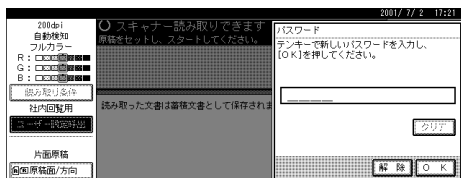
新しい文書名に変更されます。

パスワードを設定するとき

文書にパスワードを設定すると、パスワードを知っている人だけが文書を閲覧できるようになります。

❶［パスワード］を押します。

パスワード登録画面が表示されます。

❷ パスワードを4桁の数字で入力します。

❸［OK］を押します。

パスワードが設定されます。

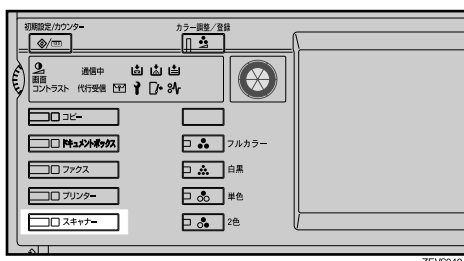
重要

- ❒ 設定したパスワードは忘れないようにしてください。もしパスワードを忘れてしまったときは、本機の管理担当者の方にお問い合わせください。

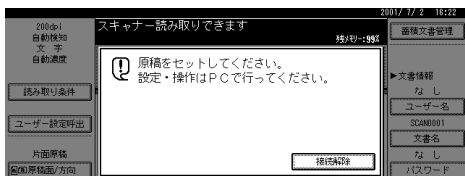
3 ネットワーク配信スキャナー機能を使用しているときは、[OK]を2回押して元の画面に戻します。

蓄積された文書の一覧表示について

ドキュメントボックスに蓄積された文書の消去や文書情報の変更は、蓄積文書の一覧画面で行います。蓄積文書の一覧画面は、次の手順で表示します。

1 【スキャナー】キーを押します。

スキャナー機能の画面が表示されます。

補足

❒ ネットワークTWAINスキャナーの画面が表示されたときは、［接続解除］を押します。ネットワークTWAINスキャナーの画面は、スキャナー初期設定の「配信・蓄積/TWAIN優先設定」でネットワークTWAINが優先に設定されていると表示されます。

2 蓄積文書の一覧画面を表示します。

ネットワーク配信スキャナーを使用しているかどうかで操作方法が異なります。

ネットワーク配信スキャナーを使用しているとき

❶［蓄積文書指定］を押します。

❷［蓄積文書管理/消去］を押します。

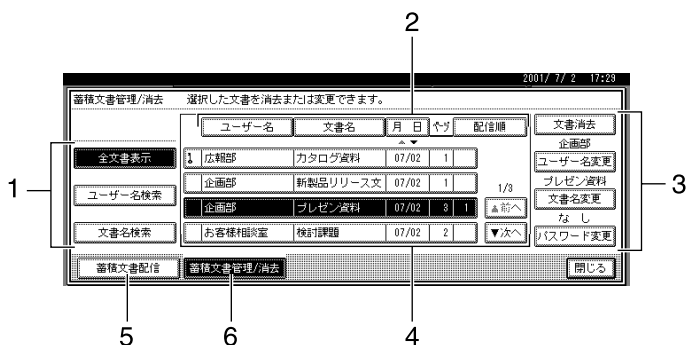
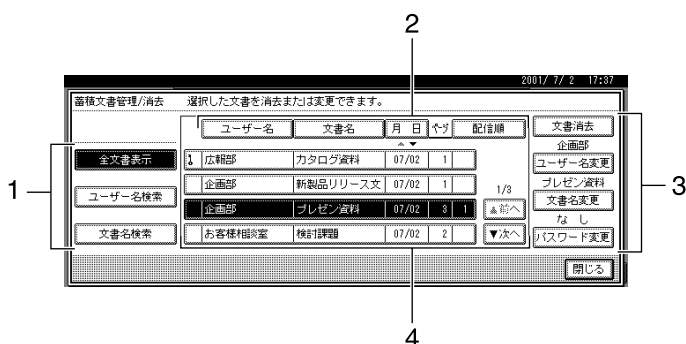
ドキュメントボックスだけを使用しているとき

❶［蓄積文書管理］を押します。

6

一覧の見かた

蓄積された文書の一覧画面の構成は次のとおりです。

❖ ネットワーク配信スキャナーを使用しているとき

❖ ドキュメントボックスだけを使用しているとき

1. **文書検索用キー**

ユーザー名または文書名で目的の文書を検索する画面と、すべての文書が表示される画面とを切り替えます。

2. **並べ替え用キー**

選択した項目で文書を並べ替えます。同じ項目をもう一度押すと、昇順と降順が切り替わります。配信順は常に昇順です。

3. **文書情報変更用キー**

選択された文書の消去や、ユーザー名、文書名、パスワードを変更したり、現在の設定を確認できます。

4. **蓄積文書の一覧**

蓄積されている文書の一覧が表示されます。

補足

- ❒ スキャナー以外の機能からドキュメントボックスに蓄積された文書は表示されません。
- ❒ 目的の文書が表示されていないときは、［▲前へ］または［▼次へ］を押して表示を切り替えます。
- ❒ パスワードが設定されている文書には、ユーザー名の左横にカギマーク（🔑）が表示されます。

5. **［蓄積文書配信］**

ドキュメントボックスに蓄積されている文書を配信するときに押します。詳しくは、P.53「蓄積されている文書を配信する」を参照してください。

6. **［蓄積文書管理/消去］**

ドキュメントボックスに蓄積された文書を消去したり、文書情報を変更するときに押します。

6

Ridoc Desk 2000 Ltでの蓄積された文書一覧表示

ドキュメントボックスに蓄積された文書は、Ridoc Desk 2000 Ltでは次のように表示されます。

1. **接続先の名称**
   接続先に蓄積されている文書を「ユーザー名」、「すべて」のフォルダに分けてデスクツリー部分に表示します。

2. **ユーザー名**
   接続先のプロパティでユーザー名を設定しておくと、同じユーザー名を指定して蓄積された文書だけが表示されます。スキャナーから蓄積された文書は、「スキャナー」フォルダに表示されます。

3. **すべて**
   接続先に蓄積されている全ての文書を確認することができます。

4. **フォルダ内容表示**
   デスクツリー部分で選択したフォルダ内の文書が表示されます。

文書を検索する

蓄積されている文書の中からユーザー名または文書名を使って目的の文書を検索できます。

ユーザー名で検索する

1 蓄積文書の一覧画面で、［ユーザー名検索］を押します。

ユーザー名検索画面が表示されます。

2 検索対象にするユーザー名を押します。

ここに表示されているユーザー名は、システム初期設定の管理者用設定で登録されたユーザー名です。ここに表示されていない名称を指定するときは、［登録外名称］を押してユーザー名を入力します。

3 ［OK］を押します。

検索が開始され、入力した文字列で始まるユーザー名の文書が表示されます。

文書名で検索する

1 蓄積文書の一覧画面で、［文書名検索］を押します。

文書名検索の画面が表示されます。

2 検索対象にする文書名を入力します。

参照

文字の入力方法については、「ファクス機能 基本編」を参照してください。

3 ［OK］を押します。

検索が開始され、入力した文字列で始まる名称の文書が表示されます。

蓄積された文書を消去する

不要になった蓄積文書を消去します。

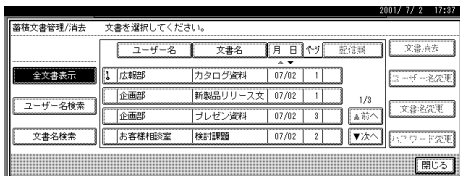
制限

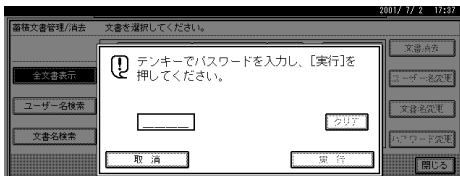
- ❒ 送信待機中の文書は消去できません。

1 蓄積文書の一覧を表示します。

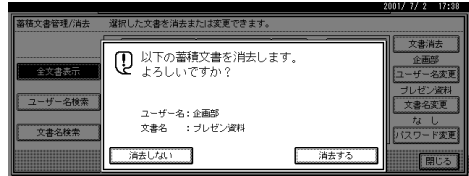
参照

⇒ P.59「蓄積された文書の一覧表示について」

2 消去する文書を選択します。

補足

- ❒ 最大で30文書まで選択できます。
- ❒ パスワードが指定されている文書を選択したときは、パスワードを入力する画面が表示されます。正しいパスワードを入力し、［実行］を押してください。

3 ［文書消去］を押します。

消去を確認するメッセージが表示されます。

4 ［消去する］を押します。

文書が消去されます。

5 ［閉じる］を押します。

6

蓄積された文書の情報を変更する

ドキュメントボックスに蓄積されている文書の情報（ユーザー名、文書名、パスワード）を変更します。

制限

❒ 送信待機中の文書の情報は変更できません。

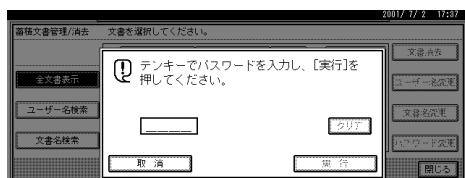
1 蓄積文書の一覧を表示します。

参照

⇒ P.59「蓄積された文書の一覧表示について」

2 文書情報を変更する文書を押します。

補足

❒ パスワードが指定されている文書を選択したときは、パスワードを入力する画面が表示されます。正しいパスワードを入力し、［実行］を押してください。

3 文書情報を変更します。

ユーザー名を変更するとき

❶［ユーザー名変更］を押します。

ユーザー名変更画面が表示されます。

❷ 新しいユーザー名を押します。

ここに表示されているユーザー名は、システム初期設定の管理者用設定で登録されたユーザー名です。ここに表示されていない名称に変更するときは、［登録外名称］を押して、ユーザー名を入力します。

❸［OK］を押します。

新しいユーザー名に変更されます。

文書名を変更するとき

❶［文書名変更］を押します。

文書名変更画面が表示されます。

❷ 新しい文書名を入力します。

参照

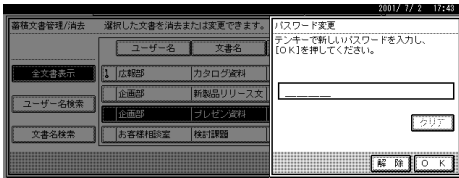
文字の入力方法については、「ファクス機能 基本編」を参照してください。

❸［OK］を押します。

新しい文書名に変更されます。

パスワードを変更するとき

❶［パスワード変更］を押します。

❷ 新しいパスワードを 4 桁の数字で入力します。

❸［OK］を押します。

新しいパスワードに変更されます。

重要

❒ 設定したパスワードは忘れないようにしてください。もしパスワードを忘れてしまったときは、本機の管理担当者の方にお問い合わせください。

4 変更された文書情報を確認し、［閉じる］を押します。

解像度と原稿サイズの関係

解像度と原稿サイズは相反する関係にあります。そのため、解像度(dpi)を高く設定するほど、読み取ることができる領域は小さくなります。また逆に、読み取り領域が大きいほど、設定できる解像度は低くなります。

ネットワーク配信スキャナーとドキュメントボックスとして使用する場合、読み取ることができる解像度と原稿サイズの関係は次のとおりです。読み取りできない組み合わせのときは「読み取りデータが大きすぎます。読み取り条件の解像度を確認してください。」というメッセージが本機の操作パネルに表示されますので、読み取り可能な条件に変更してください。

制限

❒ 画像の圧縮程度によっては、読み取ることができる画像サイズが制限される場合があります。

参照

ネットワーク TWAIN スキャナーとして使用する場合の解像度と読み取り領域の関係については、TWAINドライバーのヘルプを参照してください。

❖ 原稿種類として「文字」「文字・写真」「写真」を選択した場合

A3/11x17、600dpiまですべての組み合わせで読み取ることができます。

❖ 原稿種類として「グレースケール」を選択した場合

本機に搭載されているメモリー容量に対応し、表中の組み合わせで読み取ることができます。
◎：合計160MBメモリー搭載時
○：合計256MBメモリー搭載時
△：合計384MBメモリー搭載時

	100dpi	200dpi	300dpi	400dpi	600dpi
A3	◎	◎	◎	○	△
B4	◎	◎	◎	◎	△
A4	◎	◎	◎	◎	○
B5	◎	◎	◎	◎	○
A5	◎	◎	◎	◎	◎
B6	◎	◎	◎	◎	◎
A6	◎	◎	◎	◎	◎
A7	◎	◎	◎	◎	◎
11x17	◎	◎	◎	○	△
Legal(8 $^{1}/_{2}$ x14)	◎	◎	◎	◎	○
8 $^{1}/_{2}$ x13	◎	◎	◎	◎	○
Letter(8 $^{1}/_{2}$ x11)	◎	◎	◎	◎	○
5 $^{1}/_{2}$ x8 $^{1}/_{2}$	◎	◎	◎	◎	◎

❖ 原稿種類として「フルカラー」を選択した場合

本機に搭載されているメモリー容量に対応し、表中の組み合わせで読み取ることができます。

◎：合計160MBメモリー搭載時
○：合計256MBメモリー搭載時
△：合計384MBメモリー搭載時

	100dpi	200dpi	300dpi	400dpi	600dpi
A3	◎	◎	△	△	
B4	◎	◎	○	△	
A4	◎	◎	○	○	△
B5	◎	◎	◎	○	△
A5	◎	◎	◎	◎	△
B6	◎	◎	◎	◎	○
A6	◎	◎	◎	◎	○
A7	◎	◎	◎	◎	◎
11x17	◎	◎	△	△	
Legal(8 1/2x14)	◎	◎	○	△	
8 1/2x13	◎	◎	○	△	
Letter(8 1/2x11)	◎	◎	○	○	△
5 1/2x8 1/2	◎	◎	◎	◎	△

こんなときには

ここでは原稿が思いどおりに読み取れないとき、ネットワーク配信スキャナーの機能が使用できないとき、本機の操作パネルやパソコン上にエラーメッセージが表示されたときの原因と対処方法について説明します。

思いどおりに読み取れないとき

状態	原因と対処方法
読み取ったイメージが汚れる	原稿ガラス、または原稿カバーが汚れています。原稿ガラス、または原稿カバーを清掃してください⇒「保守・運用編　スキャナーユニット　タイプ8100対応版」。
イメージがゆがむ、ずれる	• 読み取り中に原稿が動きました。読み取り中は原稿を動かさないでください。 • 原稿が原稿ガラスから浮き上がっていました。原稿を原稿ガラスに十分押し当ててください。
イメージの上下が逆になる	原稿が上下逆にセットされていました。原稿の向きを正しくセットしてください。
イメージが全く読み取られない	原稿の表と裏が逆にセットされていました。原稿ガラスにセットするときは、読み取りたい面を下に向け、自動原稿送り装置(ADF)にセットするときは、読み取りたい面を上に向けてください⇒ P.35 「原稿のセットのしかた」。

配信の機能が使用できないとき

状態	原因と対処方法
配信スキャナー機能の画面が表示されない。	• 本機をスキャナー機能に切り替えたときにネットワークTWAINスキャナーの画面が表示されるときは、［接続解除］を押してネットワーク配信スキャナーの画面に切り替えてください。 • ネットワークTWAINスキャナーからネットワーク配信スキャナーに切り替わらないときは、ネットワーク配信スキャナーとして使用するための設定が正しくされていません。P.16 「初期設定項目一覧」を参照し、ネットワーク配信スキャナーの設定をしてください。

7

操作パネルにエラーメッセージが表示されたとき

補足

❒ ここで示されていないエラーメッセージが表示された場合は、本機の主電源を切ってから、もう一度主電源を入れてください。それでもメッセージが消えないときは、エラー内容とエラー番号（表示されている場合）をサービス実施店に連絡してください。主電源の切りかたは、P.76「本機の電源の切りかたについて」を参照し、正しい方法で行なってください。

メッセージ	原因と対処方法
一度に選択できる文書は30件までです。 これ以上は同時に選択できません。	30件を超える蓄積文書を配信するときは、複数回に分けて配信してください。
原稿サイズがわかりません。 読み取りサイズを選択し、もう一度原稿をセットしてください。	• 原稿を正しくセットし直してください。 • 読み取りサイズを指定してください。 • 原稿ガラスで読み取るときは、自動原稿送り装置(ADF)の開閉で原稿サイズが検知されます。30度以上の角度で確実に開けてください。
原稿ミスフィードのため、読み取りは中止されました。 読み取り済みのデータを送信しますか？ 送信を中止すると、読み取ったデータは消去され、蓄積されません。	配信と蓄積を同時に行ったとき、自動原稿送り装置(ADF)に原稿がつまりました。読み取り済みの文書を配信・蓄積するかどうか指定し、つまった原稿を取り除いてください。
原稿ミスフィードのため、読み取りは中止されました。 読み取り済みのデータを送信しますか？ 送信を中止すると、読み取ったデータは消去されます。	配信時、自動原稿送り装置(ADF)に原稿がつまりました。読み取り済みの文書を配信するかどうか指定し、つまった原稿を取り除いてください。
原稿ミスフィードのため、読み取りは中止されました。 読み取り済みのデータを蓄積しますか？	ドキュメントボックスへの蓄積時、自動原稿送り装置(ADF)に原稿がつまりました。読み取り済みの文書を蓄積するかどうか指定し、つまった原稿を取り除いてください。
サーバーと通信できません。 サーバーの動作状況や接続を確認してください。	配信サーバーから応答がありませんでした。次の原因が考えられます。 • 配信サーバーが起動していません。または、配信サーバーのサービスが開始していません。 • システム初期設定の「配信サーバー IPアドレス」が正しく設定されていません。 • 配信サーバーが接続先を認識していません。Ridoc Document Router / Ltの配信管理ツールの「I/O機器設定」で接続装置の登録を行なってください⇒「Ridoc Document Router / Ltの配信管理ツール ヘルプ」。 • 本機がネットワークに正しく接続していない可能性があります。イーサネットボードのLEDを確認してください⇒「システム設定編1　スキャナーユニット　タイプ8100対応版」。

メッセージ	原因と対処方法
最大送信文書待機数を越えました。 現在の文書が送信されるまで、しばらくおまちください。	配信サーバーへの送信待機文書が50文書あります。これ以上追加できませんので、文書が送信されるまでしばらくお待ちください。
指定した配信先番号は登録されていません。	指定した短縮ID番号が配信サーバーに登録されていません。正しい番号を指定してください。
指定した送信者名番号は登録されていません。	指定した短縮ID番号が配信サーバーに登録されていません。正しい番号を指定してください。
選択された文書に使用中のものが含まれていました。 使用中の文書は消去できませんでした。	Ridoc Desk 2000 / Ltで編集中や送信待機中の文書は、消去できません。編集を終了するか、配信待機を解除してから、消去してください。
スキャナー使用中です。 他の機能でスキャナーが使用されているため、読み取りできません。	本機が、コピーなどのスキャナー以外の機能で使用されています。他の機能での操作を終えてから原稿を読み取ってください。
選択された文書は使用中です。 パスワードを変更できません。	Ridoc Desk 2000 / Ltで編集中や送信待機中の文書は、パスワードは変更できません。編集を終了するか、配信待機を解除してから、パスワードを変更してください。
選択された文書は使用中です。 文書名を変更できません。	Ridoc Desk 2000 / Ltで編集中や送信待機中の文書は、文書名を変更できません。編集を終了するか、配信待機を解除してから、文書名を変更してください。
選択された文書は使用中です。 ユーザー名を変更できません。	Ridoc Desk 2000 / Ltで編集中や送信待機中の文書は、ユーザー名を変更できません。編集を終了するか、配信待機を解除してから、ユーザー名を変更してください。
選択された文書に消去された文書が含まれていたため、送信を中止しました。 蓄積文書を確認して、もう一度送信してください。	文書を配信する前に、Ridoc Desk 2000 / Ltによっていくつかの文書が消去されました。配信する文書を選択し直してください。
選択された文書に消去された文書が含まれています。 蓄積文書を確認してください。	文書を選択したあとで、Ridoc Desk 2000 / Ltによっていくつかの文書が消去されました。文書を選択し直してください。
送信に失敗しました。 サーバーのハードディスクに空き容量がありません。	配信サーバーのハードディスクの空き容量が少なくなり、配信できませんでした。必要な空き容量を確保してください。
送信に失敗しました。 指定時間後、再送信します。	ネットワーク上のエラーが発生し、配信サーバーに文書が正しく送信されませんでした。設定されている時間後に再送信されるまでお待ちください。再送信がうまくいかないときは、ネットワーク管理者に相談してください。

メッセージ	原因と対処方法
送信に失敗しました。 ［配信結果表示］を押して内容を確認してください。	配信サーバーへの送信時にネットワーク上のエラーが発生し、正しく送信できませんでした。読み取ったデータは消去されましたので、もう一度読み取り直してください。 読み取り直しても同じメッセージが表示されるときは、ネットワークの混雑が原因として考えられますので、ネットワーク管理者に相談してください。 複数の文書を配信していたときは、配信結果表示画面を表示させて、どの文書が配信されなかったのか確認してください⇒ P.52「配信結果を確認する」。
蓄積中の文書が1文書あたりのページ数の限界に達しました。 読み取った分までを1つの文書として蓄積しますか？	蓄積できるページ数は、1文書あたり500ページまでです。読み取り済みの文書を蓄積するかどうか指定してください。読み取れなかったページは、別の文書としてもう一度読み取り直してください。
蓄積できる最大文書数を超えました。 不要になった蓄積文書を消去してください。	ドキュメントボックスに蓄積できる文書数は、1,000文書までです。不要な蓄積文書を消去してください。
配信先/送信者名の一覧表の更新に失敗しました。 もう一度実行しますか？	配信サーバー側のサービスが開始されているかどうか確認してください。
配信先の登録件数が200件を越えています。	配信先が201件以上登録されています。登録する配信先は200件以下にしてください。
メモリー不足で読み取りできません。 読み取りを中止して、読み取り済みのデータを消去します。	本機のハードディスク容量が足りないため、1ページ目を読み取りできませんでした。次の対処方法を試してください。 • しばらく待ってから読み取り直してください。 • 解像度を下げて、読み取りデータを小さくしてください。 • 不要な蓄積文書を削除してください。
メモリーが一杯になりました。 不要になった蓄積文書を消去してください。 **補足** ❒ このメッセージは、1行ずつ交互に表示されます。	本機のハードディスク容量が足りなくなりました。不要な蓄積文書を消去してください。
メモリーが一杯になりました。 読み取り、文書蓄積はできません。 **補足** ❒ このメッセージは、1行ずつ交互に表示されます。	本機のハードディスク容量がなくなり、これ以上文書を保存できなくなりました。不要な蓄積文書を消去してください。

メッセージ	原因と対処方法
メモリー不足で読み取りを続行できません。 読み取り済みのデータを送信しますか？ 送信を中止すると、読み取ったデータは消去され、蓄積されません。	配信と蓄積を同時に行ったとき、本機のハードディスク容量が足りないため、途中のページまでしか読み取りできませんでした。読み取り済みの文書を配信・蓄積するかどうか選択してください。
メモリー不足で読み取りを続行できません。 読み取り済みのデータを送信しますか？ 送信を中止すると、読み取ったデータは消去されます。	配信時、本機のハードディスク容量が足りないため、途中のページまでしか読み取りできませんでした。読み取り済みの文書を配信するかどうか選択してください。
メモリー不足で読み取りを続行できません。 読み取り済みのデータを蓄積しますか？	ドキュメントボックスへの蓄積時、本機のハードディスク容量が足りないため、途中のページまでしか読み取りできませんでした。読み取り済みの文書を蓄積するかどうか選択してください。
読み取りデータが大きすぎます。 読み取り条件の解像度を確認してください。	読み取りサイズと解像度を指定し直してください。大きなサイズの原稿を高解像度で読み取る場合、読み取りできないことがあります⇒ P.67「解像度と原稿サイズの関係」。
最大読み取りページ数を超えました。 読み取り済みのデータを送信します。 残りのデータは送信後に続けて読み取ってください。	読み取ったページ数が配信できる最大値に達したため、ここまでのデータを送信します。残りのページを配信し直してください。 ⇒ P.77 「仕様」

7

パソコンにエラーメッセージが表示されたとき

TWAINドライバー使用時、パソコンに表示されるおもなエラーメッセージの原因と対処方法です。

補足

- ここで示されていないエラーメッセージが表示された場合は、本機の主電源を切ってから、もう一度主電源を入れてください。そのあともう一度読み取りを実行し、それでもメッセージが表示されるときは、エラー内容とエラー番号(表示されている場合)をサービス実施店に連絡してください。主電源の切り方は、P.76「本機の電源の切りかたについて」を参照し、正しい方法で行なってください。

メッセージ	原因と対処方法
[同じ名称が存在します。登録されている名称を確認してください。]	既に使用されている名称で登録しようとしています。別な名称で登録してください。
[原稿のサイズがわかりません。読取サイズを設定して下さい。]	• 原稿を正しくセットし直してください。 • 読み取りサイズを設定してください。 • 原稿ガラスで読み取るときは、自動原稿送り装置(ADF)の開閉で原稿サイズが検知されます。30度以上の角度で確実に開けてください。
[<サービスコール>お手数ですがサービスにご連絡ください。]	本機に、復帰不可能なエラーが発生しています。サービス実施店にご連絡ください。
[しばらくお待ちください。]	本機が準備中です。そのままお待ちください。自動的に読み取りを開始します。
[スキャナーが使用できません。スキャナーの接続状態を確認してください。]	• 本機の主電源がオフになっていないか確認してください。 • 本機が正しくネットワークに接続されているか確認してください。
[スキャナーが見つかりません。スキャナーの電源を確かめてください。]	
[スキャナーから応答がありません。]	• 本機が正しくネットワークに接続されているか確認してください。 • ネットワークが混み合っています。しばらく待ってから接続し直してください。
[スキャナーでエラーが発生しました。]	アプリケーションで指定した読み取り条件が、本機の設定範囲を超えていないか確認してください。
[スキャナーの準備ができていません。スキャナーおよびオプションを点検してください。]	自動原稿送り装置(ADF)のカバーが開いていないか確認してください。
[スキャナーに接続できません。ネットワークのアクセスマスクの設定を確認してください。]	アクセスマスクが設定されています。ネットワークまたはスキャナーの管理者にお問い合わせください。
[スキャナーの電源が入っていません。]	• 本機の主電源がオフになっていないか確認してください。 • 本機が正しくネットワークに接続されているか確認してください。

メッセージ	原因と対処方法
[スキャナーのメモリーが足りません。読取領域を小さくしてください。]	• 読み取りサイズを設定し直してください。 • 解像度を下げてください。 • 圧縮しない設定にしてください。⇒ P.21「スキャナーの使用条件を設定する」 **補足** ❒ ヘルプの「解像度と読み取り領域の関係」の表は、白黒2値（ハーフトーン）に設定したときは当てはまりません。ハーフトーンや高解像度で、明るさなどを大きな値に設定すると読み取れない場合があります。 ❒ 印刷などをしていて本機が紙づまりになると、読み取りができなくなる場合があります。この場合は、本機につまった用紙を取り除いてから読み取りを行ってください。
[前回使用していたスキャナーが見つかりません。別のスキャナーで起動します。]	前回使用していたスキャナーの電源がオフになっていないか確認し、再度スキャナー選択をしてください。
[他の機能でスキャナーが使われています。しばらくお待ちください。]	本機がコピーなどスキャナー以外の機能で使用されています。しばらく待ってから接続し直してください。
[他のユーザーが使用中です。しばらくお待ちください。]	他のユーザーが本機で原稿の読み取りを行っています。しばらく待ってから接続し直してください。
[デフォルト・ファイルには保存できません。]	デフォルト・ファイルは上書き保存できません。他のファイルに保存してください。
[ドライバー内部でエラーが発生しました。]	• ネットワークケーブルがパソコンに正しく接続されているか確認してください。 • パソコンのイーサネットボードがWindowsに正しく認識されているか確認してください。 • お使いのパソコンがTCP/IPプロトコルを使用できる環境であることを確認してください。
[メモリーが不足しています。読取領域を小さくしてください。]	パソコンで起動している不要なアプリケーションを終了させてください。
[ユーザーコードが登録されていません。管理者に問い合わせてください。]	ユーザーコードによってアクセスが制限されています。本機の管理担当者の方にお問い合わせください。

本機の電源の切りかたについて

本機にはさまざまな機能で共通使用するハードディスクやメモリーが搭載されています。そのため不用意に本機の主電源を切ると、ハードディスクやメモリーが破損したり、故障の原因となることがあります。また､配信待機中の文書が消去されることがあります。

ここでは、本機の電源および主電源を切るときの方法と注意事項について説明しています。

参照

詳しくは「システム設定編1　スキャナーユニット　タイプ8100対応版『電源の入れかた、切りかた』」を参照してください。

電源の切りかた

1 原稿カバーまたは自動原稿送り装置(ADF)が閉じていることを確認します。

2 【電源】キーを押し、電源ランプを消灯させます。

補足

- **【電源】**キーを押しても､次のときは電源ランプは消灯せず、点滅します。
  - 原稿カバー､自動原稿送り装置(ADF)が開いているとき
  - 外部の機器と通信中のとき
  - ハードディスクが動作しているとき

主電源の切りかた

操作の前に

通常、主電源は「Off」にしないでください。

主電源を「Off」にする場合は、下記「重要」を参照の上、操作してください。

重要

- 電源ランプが点灯､点滅しているときは主電源スイッチを「Off」にしないでください。ハードディスクやメモリーが破損したり､故障の原因になることがあります。
- 電源プラグは､主電源スイッチを「Off」にしてから抜いてください｡ハードディスクやメモリーが破損したり､故障の原因になることがあります。
- 主電源スイッチを「Off」にしたり､電源プラグを抜くときは､ファクス機能の画面でメモリー残量の表示が100%であることを確認してください。主電源スイッチを「Off」にしたり､電源プラグを抜いて約1時間経過すると､ファクスのメモリーに蓄積されている内容が消去されます。⇒使用説明書「ファクス機能 基本編 『電源の切りかた』」

1 電源ランプが消灯していることを確認します。

2 主電源スイッチを「Off」にし、主電源ランプを消灯させます。

仕様

読み取り方式	原稿台固定平面走査方式
イメージセンサーの種類	CCDイメージセンサー
原稿の種類	シート、ブック
インターフェース	イーサネットインターフェース（10BASE-Tまたは100BASE-TX）
最大原稿サイズ	A3/11x17 (297mm×432mm)
基本読み取り密度	600dpi
読み取り密度可変範囲	• ネットワークTWAINスキャナー使用時 100～1,200dpiの範囲で指定可能 • ネットワーク配信スキャナー使用時 100dpi、200dpi、300dpi、400dpi、600dpiから指定可能
最大文書・ページ数	❖ **蓄積** • 拡張HDD(40GB)使用時 最大文書数 1,000文書 最大ページ数 2,000ページ （1文書あたりのページ数は500ページまで） ❖ **配信** • 拡張HDD(40GB/20GB)使用時 最大文書数 100文書 最大ページ数 1,500ページ （1文書あたりのページ数は500ページまで） • 拡張HDD(40GB/20GB)未使用時 1文書あたりのページ数は160ページまで

電波障害について

他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。

- テレビやラジオなどからできるだけ離す。
- テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える。
- コンセントを別にする。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

索引

アルファベット索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

や行

ら行

株式会社リコー
東京都港区南青山1-15-5 リコービル 〒107-8544
（03）3479-3111（代表）

お問い合わせ先

お買い上げいただきました弊社製品についての消耗品のご注文やアフターサービス、製品の操作方法に関するお問い合わせはお買い上げの販売店、もしくは最寄りのサービス実施店にご相談ください。
転居の際は、販売店またはサービス実施店にご相談ください。転居先の最寄りの販売店、サービス実施店をご紹介いたします。

スキャナー機能の操作方法に関するお問い合わせは、
「リコープリンターコールセンター、IPSiO（イプシオ）ダイヤル」にご連絡ください。

0120-56-1240（コールはイプシオ）

● 受付時間：9〜12時、13〜17時（土、日、祝祭日、リコーの休業日を除く）

最新スキャナードライバー情報

最新版のスキャナードライバーをインターネットのリコーホームページまたは@niftyのリコーファンフォーラムから入手することができます。
● インターネット/リコーホームページ：http://www.ricoh.co.jp/
● @nifty/リコーファンフォーラム：>GO FRICOH⏎

リコーは環境保全を経営の優先課題のひとつと考え、リサイクル推進にも注力しております。本製品には、新品と同一の当社品質基準に適合した、リサイクル部品を使用している場合があります。

リコーは環境に配慮し、説明書の印刷に大豆から作られたインキの使用を推進しています。
この説明書の本文はエコマーク商品に認定された再生紙を使用しています。

2002年1月　G570-8519

IPSiO Color8150 スキャナーユニット タイプ8100 使用説明書〈スキャナー機能編〉